
平成30年 第2回(定例)日出町議会会議録(第3日)

平成30年6月12日(火曜日)

議事日程(第3号)

平成30年6月12日 午前10時00分開議

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

本日の会議に付した事件

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

出席議員(16名)

1番	河野 美華君	2番	豊岡 健太君
3番	安部 徹也君	4番	川辺由美子君
5番	衛藤 清隆君	6番	阿部 真二君
7番	上野 満君	8番	金元 正生君
9番	川西 求一君	10番	岩尾 幸六君
11番	土田 亮治君	12番	池田 淳子君
13番	工藤 健次君	14番	熊谷 健作君
15番	佐藤 二郎君	16番	森 昭人君

欠席議員(なし)

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長 井川 功一君 次長 工藤 明美君

説明のため出席した者の職氏名

町長	……………	本田 博文君	副町長	……………	目代 憲夫君
教育長	……………	堀 仁一郎君	総務課長	……………	藤本 英示君
財政課長	……………	白水 順一君	政策推進課長	……………	木付 達朗君
契約検査室長	……………	宇都宮正徳君	税務課長	……………	岡野 修二君
住民課長	……………	堀 雅之君	福祉対策課長	……………	阿部 孝君
子育て支援課長	……………	佐藤久美子君	健康増進課長	……………	利光 隆男君
生活環境課長	……………	岩尾 修一君	商工観光課長	……………	藤原 寛君
農林水産課長	……………	今宮 明君	都市建設課長	……………	松本 義明君
上下水道課長	……………	後藤 英樹君	教育委員会教育総務課長	…	帯刀 志朗君
教育委員会学校教育課長	…	小田 雅章君	生涯学習課長	……………	安田加津浩君
日出町立図書館長	……	河野 一利君	文化振興室長	……………	工藤 智弘君
学校給食センター所長	…	一丸 博文君	監査事務局長	……………	西村 浩明君
総務課参事兼危機管理室長	…	塩内 政徳君	総務課課長補佐	……………	河野 匡位君
財政課課長補佐	……………	梶原 新三君	会計課課長補佐	……………	大川 英徳君

午前9時59分開議

○議長（森 昭人君） 皆さん、おはようございます。きのうに続き、御苦労さまでございます。

開議の宣告

○議長（森 昭人君） ただいまの出席議員は16名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程表により行います。

日程第1. 一般質問

○議長（森 昭人君） 日程第1、昨日に引き続き、一般質問を行います。

なお、議会報編集特別委員会委員長より、議会報編集のため一般質問者の写真撮影の許可の申し出がありましたので、これを許可します。

それでは、順次質問を許可します。1番、河野美華君。

○議員（1番 河野 美華君） おはようございます。1番、河野美華です。このたびたくさんの方々に御支援をいただき、議席をいただきました。このすばらしいふるさと日出町を私たちの世代が受け継ぎ、さらに発展をさせ、次の子供たちの世代に確実につなげていくことが私たち

の責務だと思っております。

最年少で経験も浅く、微力ではございますが、全力を尽くしてまいります。よろしくお願いいたしますします。

それでは、質問に入ります。

まず、1つ目の質問は、子育て支援の拡充について伺います。

子育て支援の充実が町長の公約でもありますし、第5次日出町総合計画において基本的施策に位置づけられており、町の重点施策であると理解しています。これまでも子供医療費助成の対象拡大や病後児保育の設置など、順次支援が拡充されているところです。

しかしながら、近隣市町村と比較しますと、まだまだ道半ばであると感じずにはられません。例えば、大きなところで言いますと、平成30年度当初予算における年少人口1人当たりの児童福祉費を比較すると、杵築市は日出町の約1.2倍、豊後高田市は約1.5倍の予算が措置されています。

このような現状を踏まえ、今後の子育て支援の拡充に対する思い、方向性を教えてください。

次の質問からは質問席にて行います。

○議長（森 昭人君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 河野美華議員の御質問にお答えをいたします。

日出町は区画整理事業が完成をいたしました。また、民間の宅地開発が進んでおりまして、住宅が建って転入者がふえる余地がございます。こうしたこともあって、日出町は子育て世代の転入が転出を上回っているという状況でございます。

一方で、こうした家庭は核家族であることが多く、子育てについての知識を家庭内で得ることが難しい状況にあります。また、共働き家庭がふえていることから、昼間や放課後における子供の保育や居場所づくりが重要になっておりまして、支援の必要性を感じております。

こうしたことから、日出町では安心して子育てできるための支援として、平成29年度は子供医療費助成事業の拡充、子育てホットクーポン活用範囲の拡大、放課後の子供の居場所づくりの整備、幼保連携型こども園の園舎建設に伴う助成等を行ってきたところでございます。

今後も保育サービスの充実を図るとともに、核家族化や地域のつながりの希薄化によって子育て中の保護者が孤立しないように、国や県の政策を踏まえながら、日出町子ども・子育て支援事業計画に沿って、子育て世代が安心して働き、出産し、子育てがしやすい環境の実現に取り組んでまいりたいと思っておりますので、御支援をよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。3月の選挙期間中、多くの町民の方とお

話しする機会がありました。私の公約について話をしたところ、町長も子育て支援に力を入れると言っていた。町長も子育て支援を頑張っていて、子供の医療費を安くしてくれたなど、町長への期待の声を聞きました。改めて町長から今後もしっかり取り組んでいく旨の答弁をいただきました。

総合計画策定の際の町民アンケートでも、町が目指していきべき将来像はという問いに対して、安心して子供を生み育てることができる子育ての町が断トツの1位で上がっています。今後について、町民と町長が同じ方向を向いていることが確認でき、安心いたしました。

子育ての町という将来像を目指すには、今現在直面している課題に着実に対応していく必要があります。子育て世代、特に働く親にとって切実な課題は、病児保育所が町内にないということです。この質問につきましては、昨日の同僚議員と重複しますので確認になりますが、町としての病児保育所はまだなく、平成32年までの設置を検討しているということで、よろしいでしょうか。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長、佐藤久美子君。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） 河野議員の御質問にお答えする前に、昨日、川辺議員の病児保育の御質問の中で、杵築市内の病児保育の利用料金を、私が1,800円と申し上げましたが、2千円でしたので、ここで御訂正させていただきます。

それでは、河野議員の御質問にお答えさせていただきます。

川辺議員の答弁と同じ内容になるかと思いますが、現在、日出町では藤原こども園に委託して、病後児保育室たんぽぽを実施いたしております。

また、町内では鈴木病院が、子ども・子育て支援法に係る企業主導型保育事業を活用して、事業所内保育事業とあわせて、病児保育事業並びに病後児保育事業を、本日から実施すると聞いております。

今後は、病後児保育事業につきましては、藤原こども園に委託して、病後児保育室たんぽぽを継続して実施したいと思っております。

病児保育につきましては、鈴木病院が国の企業主導型保育事業の助成を受けて運営する病児保育事業並びに病後児保育事業の実施状況を注視しながら、今後の取り組みについて検討したいと思います。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） 鈴木病院の病児保育は、受け入れ人数が3名ということです。感染症のはやる時期などは、3名では不足するのではないかとということが予想されます。町での病児保育の設置は、働く親にとって物理的にも、精神的にも大きな負担軽減となります。困ってい

る人たちがいますので、少しでも早く設置をお願いしたいと思います。

次の質問へいきたいと思います。

ファミリー・サポート・センター事業について伺います。

地域子ども・子育て支援事業の一つに位置づけられているファミリー・サポート・センター、通称ファミサポと言いますが、ファミサポ事業を日出町も平成28年度から行っています。ファミサポは、主に子供を預け援助を受けたい、おねがい会員と、子育てを援助したい、まかせて会員からなる、子育てを地域で相互援助する事業です。

厚生労働省が作成している実施要綱の事業目的には、「地域における育児の相互援助活動を推進するとともに、病児・病後児の預かり、早朝・夜間等の緊急時の預かりや、ひとり親家庭等の支援など多様なニーズへの対応を図ることを目的とする」とあります。

しかし、日出町では、病児・病後児の預かりをファミサポ事業の対象外としています。まず、対象外としている理由を教えてください。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） 日出町では、ファミリー・サポート・センター事業で病児・緊急対応強化事業に取り組んでいない理由ということでございますが、現在、日出町ではファミリー・サポート・センター事業を日出町社会福祉協議会に委託して実施しております。河野議員が言われる病児・緊急対応強化事業は、国の実施要綱ではできるようになっておりますが、日出町では病児・病後児の預かり等支援を行うための、まかせて会員の確保ができていないため実施できておりません。

県内では佐伯市のみが実施しているようですが、平成29年度実績は3件と聞いております。

今後は、町内の病児保育事業や病後児保育事業の実施状況を確認しながら、ファミリー・サポート・センター事業における病児・緊急対応強化事業について検討したいと思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） 日出町では、まかせて会員の確保ができていないということなのですが、なぜ確保ができていないのでしょうか。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） このまかせて会員というのは、一般的には、二十歳以上で、子育て経験がある方となっております。

ただ、病児・病後児になりますと、子供さんの病気等の緊急時病気対応ができるような、例えば看護師、養護教諭等の確保ができていないという状況ですので、今後はまた、そのまかせて会員にそういった研修等を行っていただくような形をとりたいと思っております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） 通常の預かりに比べて病児・病後児を預かるのはリスクが高く、まかせて会員の負担も大きいというのは確かにあると思います。しかし、それはまかせて会員とおねがい会員がしっかりと相互に理解し合えばよいことであって、制度や仕組みとして最初からそれを除外する必要はないのではないのでしょうか。潜在看護師や潜在保育士を対象として幅広く呼びかけて、まかせて会員を募集していくというような方法もあると思います。

今後、ファミサポで病児・病後児預かりを拡充するつもりはありませんか。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） 今後、この病児・病後児の需要がふえるようでありましたれば、また、まかせて会員等に研修をしていただきまして、それとあと、施設の整備、子供さんの病気によっては隔離等が必要な場合もあるかと思っておりますので、その面も整備する必要があるかと思っております。今後、検討させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 河野美華君。

○議員（1番 河野 美華君） 全国のファミサポのネットワーク拠点である女性労働協会が、平成28年度に実施した活動実態調査では、ファミサポを実施しているセンターのうち、約3割のセンターが病児・病後児預かりを実施しています。女性労働協会に話を伺いますと、実施している市町村も実施していない市町村もリスクは同じだということでした。

では、リスクがあるにもかかわらず、約3割のセンターではなぜ実施できるのかと伺ったところ、行政が必要性を認めて判断したとの極めてシンプルな回答でした。

実施に向けてさまざま課題はあると思いますが、町長は公約において、子育て満足度県内一位を掲げました。その大分県は日本一を目指しています。つまり、県内一位を目指すということは、日本一を目指すということになります。子育てのニーズに即時性を持って対応することが満足度向上につながると思います。また、病児保育所だけではないという利用者の選択肢が広がることも満足度向上につながります。

ファミサポ事業の拡充を強く願ひまして、次の質問へ移りたいと思います。

次期学習指導要領について、伺います。

国は、新学習指導要領に2020年度から小学校でのプログラミング教育の必修化を盛り込んでいます。自分の意図を実現させるための筋道を論理的に考えることができるプログラミング的思考を育むことが目的で、情報活用能力を言語能力と同じ学習の基盤となる資質、能力として初めて規定しています。

プログラミング教育必修化というキーワードを各種報道で目にする機会もふえており、保護者は、一体どんなことが行われるのか、漠然とした不安を感じています。日出町の学校において、子供たちへの教育をどのように位置づけ、実施していく予定なのか、教えてください。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長、小田雅章君。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） 河野議員の質問にお答えいたします。

プログラミング教育は、児童がプログラミング言語を覚えたり、技能を習得したりといったことではなく、従来から行っている算数や理科などの学習内容と関連づけながら論理的に考えていく力や、コンピューター等を上手に活用して、より社会を築いていこうとする態度などを育てることをねらいとしています。

例えば、5年生の算数で正多角形の作図を学んだ後、定規と分度器を用いた作図と、プログラミングによる作図の双方を試みるといった学習活動が考えられます。このような活動によって、児童の学習内容の定着をより確実なものにできます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。今、学校教育課長も言われましたが、プログラミング教育の目的は、プログラミング言語を覚えることや、プログラミングができるようになることではないのですが、そういったものができるようになることといった誤解が広がっているのではないかと指摘もあります。

この新しい教育に関する保護者への啓発、不安解消など、どのような取り組みを行っているか、もしくは行っていく予定なのか、教えてください。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） 新しい小学校の学習指導要領では、ほかに道徳と英語が教科化されるなどの改定がありますが、教員の研修を十分に行うなど、万全の準備を進めているところです。

学校の教育内容については、今後もPTA等を通じて保護者に説明を行ってまいります。

以上です。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。保護者の中には、誤解に基づくものと思われる反応をしている人もいますし、誤解はしていなくても、プログラミング的思考などとは、家庭においてどのように学習させていけばよいのかわからないと思っている人もいます。親自身も不安なく子供に教育を受けさせられるような対応をお願いしたいと思います。

5月12日の合同新聞の報道によりますと、プログラミング教育必修化を控え、子供向けのプ

プログラミングへの関心が高まっており、官民が主催するプログラミング教室が増加しているとのこと。実際、大分市では、情報学習センターにおいて、年間を通して小学生と保護者向けの教室を開講しているとのこと。

日出町においても何らかの形で、プログラミング教室を行う考えはないでしょうか。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） プログラミング教室については、現在のところ予定はございません。プログラミング教育についての学校での教員向けの研修を充実していこうと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） プログラミングといいますと、難しいプログラムを打ち込んでいくイメージですが、実際、教室で行われるのは、失敗から改善方法を考えるなどの論理的思考の育成だそうです。小さな成功体験や達成感が子供たちの意欲や向上心につながるのではないかと思います。

日出町の子供たちが、ほかの地域よりスタートダッシュがおくれたりして困ることのないような対応をお願いしたいと思います。

さて、今までは2020年度に向けての話をしましたが、既に子供が情報機器を操作することは珍しくない社会になっています。子供を情報社会の被害に遭わせないことや、健やかな成長を考えた利用環境づくりは、現在の親の使命です。

しかし、私たち親が子供のころにはなかったものですので、ハード面とソフト面においてどのような対策をとればいいのか、はっきりとはわからないでいる親が多いように感じます。

そこで、フィルタリング等安全な環境づくりの周知、啓発など、保護者に対する取り組みを教えてください。

また、子供たち自身のICTリテラシー向上に対する取り組みを教えてください。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） お答えいたします。

子供たちがみずから情報を取捨選択し、適切に情報発信を行う能力を養うことが大切です。そのために、家庭で情報機器を与える保護者が、安全・安心な環境づくりの第一義的責任を担っていることを自覚する必要があります。

保護者に対する啓発として、町内全ての小学校で、インターネットに潜む危険などについて、外部講師などを招くなどして講演を行っています。また、本年度、日出中学校では、4月のPTAで、杵築日出警察署の生活安全課がフィルタリングについて話をしてくれました。

子供たちのICTリテラシー向上ということですが、このICTリテラシーという言葉は総務省が用いております。学習指導要領の中では、情報活用能力という言葉に当たると思います。

子供たちの情報活用能力を育成することは、学校の教育活動全体を通じて横断的に実施しています。小学校ではコンピューターなどの基本的な操作を身につけることや、各教科の授業において情報手段を適切に活用すること、情報モラルを身につけることなどの指導を行っています。

情報活用能力とともに、よりよいコミュニケーションのための判断力と心構えを育成することが、現代の親と教師に課された使命であると考えます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） 町内全部の小学校や中学校で安全な環境づくりをされているということで、安心いたしました。今後も子供たちが情報機器に触れる機会は増すばかりです。プログラミング教育の必修化も控えています。安全な環境を大人たちがつくり、子供を守っていかねばならないと私も思います。

また、現代においては、子供たち自身もそれぞれの発達段階に合わせた正しい知識を持ち、ネット社会とつきあってもらう必要があります。ぜひ今後も啓発等の取り組みをお願いしたいと思います。

それでは、次の質問に移ります。

図書館の利活用促進についてです。

図書館は、個々の家庭では所有することができない図書や空間が提供される場であり、それらは町民の共有の財産です。現在の図書館が開館したのが2015年7月18日ですので、来月で丸3年がたとうとしています。

日経BP総研が運営するウェブサイト、新・公民連携最前線には、当時の教育委員会へのインタビュー記事が掲載されています。それによりますと、「より多くの人たちに図書館を訪れてもらうために、人が集まる商業ゾーンに移転した。日出町だけではなく、近隣や国東半島一体の拠点となってほしい。ゆったりとした館内でのコンサートなど、利用者層を広げていくイベントを企画したい」など、新図書館を多様な皆さんに使ってもらいたいという熱い思いが語られています。

そこで、まず、各世代の図書館の利用状況を教えてください。

○議長（森 昭人君） 図書館長、河野一利君。

○日出町立図書館長（河野 一利君） それでは、河野議員の御質問にお答えいたします。

各世代に利用状況についての御質問であります。今、議員がおっしゃられたとおり、多くの方が利用されるということで、図書館のほうでは、実際の本を借りられる方、それから館内で読

書をされる方、あとまた、資料作成とか、学習をされる方です。そのほか、読み聞かせやイベントに来られる方など、利用目的はさまざまでございます。

で、各世代の利用状況でございますが、世代での把握がなかなか困難でありまして、今、御報告できるのが来館者の数、それから、年代別での本の貸し出し状況、それから、学習室での利用状況等の統計に基づいての答えという形になろうかと思えます。

で、その他、行事も多数行っておりますけれども、世代での把握がちょっとできておりませんので、参加者の参加数しか報告ができないという状況であります。確定できる範囲でお答えさせていただきたいというふうに思います。

まず1点目は、平成29年度の来館者数です。10万2,910名で、直近で、平成30年5月末現在で31万1,145名となっております。

図書館の統計での本の貸し出し総数は、13万8,275冊で、うち就学前児童が全体の9.2%、で、小学生が15.4%、中学生が1.4%、で、高校生はちょっとすくないんですが、0.5%。で、一般の方が73.5%となっております。

それから、学習室の利用者の総数でございますが、29年度は4,810名というふうになっております。同様に、就学前児童が0.1%、小学生が8.5%、中学生が13%、で、高校生が30.5%、一般の方が残り47.9%というふうになってございます。

そのほか、行事関係での参加者数であります。主なものだけ申し上げさせていただきたいと思えます。5月にあります子供読書週間行事、1週間程度催すわけですが、それに448名の参加がございました。あと、図書館の見学とか、職場体験ということで、学生さんが158名参加されております。年3回いたしました図書館でのミニコンサートについては、延べ400名の方にお越しいただいております。

そのほか、講座とか、講演会を開催しておりまして、それに約94名の参加をいただいているところであります。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。学生の利用が少し少ないかなという気がしますが、各世代が利用しやすい図書館づくりについて、どのような取り組みを行っているのか、教えてください。

○議長（森 昭人君） 図書館長。

○日出町立図書館長（河野 一利君） それでは、各年代が利用しやすい図書館について、どのような取り組みを行っているかという御質問であります。図書館が開館する際に、いろんな調整等も行いながら図書館ができたわけでございますが、まず、施設面でありますけれども、開館時間

を平日は午後7時までとさせていただきます。で、土曜、日曜、祭日は午後5時30分までの御利用ができます。

また、入り口のほうには車椅子とベビーカーを配置しておりまして、随時御利用ができるという形にしております。

館内におきましては、子供の方から大人の方まで簡単に画面タッチで操作ができます図書検索パソコン、それから自動貸し出し機、それからインターネット専用ではありますが、パソコンを設置しまして、利用をいただいております。

そのほか、個人的なパソコンを持ち込んで資料作成される方のためのスペースとか、あとは学習室、授乳室なども配置をしておるところであります。

ソフト面におきましては、自宅からインターネットでの利用で、図書館の蔵書の検索、それから、別途手続を行っていただければ、既に借りられている本の予約等も行えるようになっております。

また、予約本が戻れば、申請者の方に返信メールや電話で直接御案内等も行っているところがあります。

館内には、そのほか、はだして歩ける乳幼児向け絵本コーナーや、中高生向けのコーナー、それから、通常よりも字が大きい大活字本コーナーや、毎月テーマ展示なども必要に応じて行っているところがあります。

そのほか、イベントや講演会なども実施しまして、できるだけ多くの方に図書館に足を運んでいただけるよう、スタッフ一同、取り組みを進めております。

また、利用者の要望等もありますので、把握するためにアンケート箱の設置や、館内には細かい飾りつけなども行いまして、日々努力をしておるところであります。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。

今、答弁いただいたように、利用しやすい図書館づくりをさまざま取り組まれているのだなと思いました。私自身も、新しい図書館は広くて景色の見晴らしもよく、居心地がいいので、気晴らしに利用することがあります。本年4月には来館30万人を達成し、さまざまな取り組みの成果が出ているところだと思います。

さらなる図書館の利活用促進のために、私からも2点提案させていただきます。

1点目は、館内の部屋の有効活用です。まず、おはなしの部屋についてですが、月2回の読み聞かせのイベント以外のときにも自由に親子で使ってもよいということを、先般、図書館の方に教えていただきました。しかし、いつも電気が消えていて、入り口のドアも閉められているので、

自由に使ってよい部屋と知らない人は多いです。

今まで私も知らなかったので、部屋の外の絵本コーナーで子供に本を読んでいたのですが、ほかの親子たちも、皆さんそこで過ごしていて、部屋の中に入っている人を余り見たことがないです。皆さん、周りに気をつかい合いながら、できるだけ小さい声で子供に本を読んで、小さい子はわからなくて当たり前なんですけれど、少しでも騒ぎますとさえぎるものがなくて響きますので、親も叱らざるを得ないです。部屋を使ってよいと知らないがゆえに、本を借りに行きたくても、子供を連れて行くと、騒がしくて迷惑がかかるからとあきらめたことが私も何度もあります。せめて部屋を自由に使っていいとわかるように入り口に書いていただければ、親子で窮屈な思いをしながら過ごさなくても済むと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（森 昭人君） 図書館長。

○日出町立図書館長（河野 一利君） 今のおはなしの部屋です。おっしゃるとおり随時使ってはいいようにはなっております。ただ、入り口は常に閉めたような状況にはしております。で、利用者の方につきましては、カウンターの方に申し添えて随時使っていただくということでは行っております。

で、もう一点、自由に使う際に、先般でもあったんですけども、二、三人の方が利用された際に、中で実際読み聞かせでなくて、お母さん方が情報交換としてほかの書類をつくりながら活用しているとか、そういった利用目的に反した利用等もあった経緯がありまして、注意をしたところでもございます。

で、今おっしゃるその入り口のほうに掲示をどうかという提案ですが、これは前向きに図書館としても進めたいと思います。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。一部の利用者がマナーが悪いというお話がありましたが、またそれは別の話だと思っていて、そのことによって多くの利用者が不利益をこうむるというのは容認できることではありません。マナー向上はマナー向上でしっかりと取り組んでいただき、子供連れの利用者が気兼ねなく利用できるよう工夫をお願いいたします。

次は、ディスカッションルームの活用についてです。

先ほどの答弁によれば、一般の方は73.5%の利用状況であるということでしたが、65歳以上の利用者も相当数いらっしゃるのではないかなと思います。日出町も着実に高齢化が進行していますので、今後も増加していくと思われまます。これからの図書館には高齢者の居場所、交流の場としての機能も期待されます。現在、公民館や福祉センターなどで高齢者向けのいろんな教室が行われていますが、図書館にしかない機能を生かした図書館ならではの企画をしてはどうで

しょうか。

例えば、自分史づくりという取り組みがあります。これは一般の人がつくる自叙伝のようなものです。自分史では、自身が生まれ育った地域の文化や歴史についてつづられることが多く、自分史づくりそのものが文化の保存・継承に寄与すると言われていています。また、心理療法などの分野において、高齢者は自身の過去を振り返る精神的ニーズを持つことが指摘されており、自分史づくりはそのニーズに対応する高齢者サービスとしても位置づけることができます。こういった取り組みは有意義であると考えますが、いかがでしょうか。

○議長（森 昭人君） 図書館長。

○日出町立図書館長（河野 一利君） 自分史づくりということで、新しいアイデアをいただきましたので、今後、司書のほうと相談しながら事業化できる方向で検討していきたいというふうに思います。ありがとうございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） 前向きに取り組んでいただけるということで、ありがとうございます。

高齢になり耳が聞こえづらくなると、テレビを見たりするより本を読むほうが楽しみだとの声を聞く一方で、これまで図書館とは縁がないという方もいます。そういった方にも足を運んでもらえるような利用の幅が広がる取り組みをしていただけたらなと考えます。

最後に、2点目の提案です。図書館入り口にある返却箱は図書館が閉館しているときのみ利用可能です。開館時間中は返却のためだけに2階の奥のカウンターまで行かなければなりません。高齢者は特に不便さを感じています。これを24時間利用可能にすることはできないでしょうか。

また、町内の遠方から本の返却のために図書館まで来るとするのはとても不便なことです。一層の利便性向上のため、各地区に1つ返却箱を設置するというのはどうでしょうか。

○議長（森 昭人君） 図書館長。

○日出町立図書館長（河野 一利君） ただいまの御質問ですが、返却箱を各地区に設置するというのと、既存の返却箱を24時間入れるようにできないかという御質問でございます。

非常に難しい御質問ですが、現在、交流広場H i C a L i 1階にある返却箱につきましては、開館前に返却箱をあけて全て返却処理を行った後に、次に新たに貸し出しができるような準備を毎朝職員が行っているところでございます。

以前、24時間受け付けをできないかという御提案も一般の方から窓口でございました。で、各地区への設置それから24時間受け付けをすることは、確かに返却のみに関すれば利用者にとっては大変利便性向上は図れるところではあるんですけども、手続上、返却箱に入れたままだと返却処理が完了しないということで、データ上は貸し出し状態がまだ残っているという形になり

ます。そのまま図書館のほうにお越しになられて、また新たな本を借りようとされますと、希望冊数を借りられない場合などのトラブルが発生するおそれがございます。現在、利用者の方には、こういった理由を御説明して、開館中はできるだけカウンターでの返却をお願いしております。

で、返却箱はカウンター返却とは異なりまして、汚れや落書き、破損等が本人の直接話ができないということで確認ができないということもありまして、それが1点です。それから、丁寧に本を包んで返却箱に投函していただける方もいらっしゃるんですが、そのまま投函される方もありまして、箱の中は無造作に本が重なる状況もありまして、本が大変重なりと重くなります。で、返却箱での返却については、実際本が傷んでいるというような状況がございます。

実際にその返却箱の中の本の管理、それから回収方法、それから時期、それから地区に設置された場合の返却箱の管理、その他、返却手続や利用者への新たな貸し出しなど、問題点もちょっと多く考えられます。

で、これまでも、こういったことで要望があった際に幾度か検討はしてきたところではございますが、基本は、本を大切に利用していただく。で、また次の方に利用していただくことが基本にありますので、今提案がありました各地区への設置それから24時間受け付けは、現状、ちょっと難しいかなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 河野君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。返却箱に返却されると本が傷むという話がありました。大分市民図書館など3カ所の図書館に聞いたところ、返却箱の使用による本の傷みは軽微であり、さほど問題ではないとのことでした。他市町では何か日出町で行っていない工夫をしているから軽微で済んでいるのかもしれないので、ぜひ他市町の取り組みも参考にしながら検討をお願いいたします。

それと、各地区に返却箱を設置した場合、回収の課題は確かにあります。図書館の職員数も多くないと聞いています。私も解決策がないかと考えたところ、例えば、コミュニティバスを活用するなど、図書館の枠を超えた方法を考えればできるのではないかと思います。毎日、町内を巡回しているコミュニティバスで回収をすれば、大きな追加コストをかけることなく、回収できるのではないかと思います。いかがでしょうか。

○議長（森 昭人君） 図書館長。

○日出町立図書館長（河野 一利君） 回収方法につきましては、確かにコミュニティバス等を使つての回収も一つあるのかなとは思いますが、基本、冒頭申し上げたとおり、毎日、夜もしくは閉館時に返却箱に入った物を朝必ず貸し出し手続ができるように処理を行うという手続も行います。先ほど言いましたとおり、返却手続が終わらないと、申請者に対して、また、トラブル

等も発生するというごことまございますので、返却する、回収する時期、それもコミュニティーバスで時間を置いて、時間ごとに全て回収するというのも、なかなか困難ではないかなというところも一つございますので、また、その辺につきましては、今後検討させていただいて、できるものであれば、進めていきたい。ただ、今のところ、現状とすると、ちょっと厳しいのかなというのが、私の回答ということにさせていただければなと思います。

以上です。

○議長（森 昭人君） 河野美華君。

○議員（1番 河野 美華君） ありがとうございます。返却箱に残っていると貸し出し状態になっていて、次の方が借りられないとの問題についてですが、一人10冊ですか、借りられると思うんですけども、10冊借りて、読み終えた本から返却したいが、その都度、図書館まで行くのは大変という方もいらっしゃると思います。もし、自分のお家の近くに返却箱があれば、1冊読み終えたごとに返却できるので、もし、それがなければ、10冊全部読み終えるまで、ずっと全部借りておくことになるので、返却箱があっても、次の方の貸し出しにメリットがある部分もあると思います。さまざま課題はあると思いますが、図書館の利用を通して、町民の生活がより豊かになるように、高みを目指し、工夫を凝らしていただければと思います。私も微力ながら知恵を絞ってまいります。

図書館は、他者からは干渉されにくいにもかかわらず、孤独を感じたりすることもない安心感と居心地のよさが共存している貴重な場所です。地理的にも町の中心にあり、さまざまな世代の接点の場であります。図書館に高齢の方も、若い方も、町外の方も、多くの人が集い、より充実したにぎわいのある場所になるよう取り組んでいただきたいと思います。

以上で質問終わります。ありがとうございました。

.....

○議長（森 昭人君） 3番、安部徹也君。安部徹也君。

○議員（3番 安部 徹也君） 皆さん、おはようございます。議員番号3番の安部徹也です。

まず、去る3月25日の選挙で、町民の皆様の負託を受けて、この場に立てることを心より感謝申し上げます。何分、何事も初めての経験になりますので、至らぬところもあると思いますが、温かい目で見守っていただければ幸いに思います。

私は、この2カ月間、町議会議員として、日出町中を視察して回り、また、新人議員として、研修を受けるにつけ、この日出町が数多くの問題を抱えている現状を目の当たりにしてきました。もちろん全く問題のない地方自治体などないというふうには思いますが、このような一般質問の機会を通して、現状日出町が抱える問題を少しでも解決に導き、この生まれ育った日出町がより住みやすい町となるように、全身全霊をかけて、町民の皆様のために尽くしていきたいというふ

うに思っておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず、ふるさと納税について伺いたします。

日出町は、皆さん御存じだと思いますが、非常に財源の乏しい町と言えます。年間の予算は一般会計でおよそ100億円、100億円です。これは、お隣の別府市の500億円、そして、杵築市の200億円に比べれば、いかに少ない予算で日出町はやりくりしないといけないのか、それを如実にあらわしています。

また、日出町は、年間の必要となる経費、これを税金などの収入で賄っていくわけですが、この比率が96.9%と、ほとんどの収入が必要経費の支払いで消えていくという現実に直面しています。この水準は、大分県下では、日出町は18市町村の中で16番目であり、財政的に非常に厳しい状況に置かれているのが数字の上からもわかると思います。この状況は一般家庭に例えれば、もう、日々食べるのに精いっぱい、車を買ったり、家を建てたり、将来を見据えた投資がほとんどできない状態というふうに言うことができると思います。一般的には30%程度、30%程度は将来の投資に備えた収入がある水準が望ましいということなのですが、現状、日出町の場合、余裕が0.31%しかありません。0.31%です。ですから、100分の1ですか。今後、日出町にとって、収入をいかにふやしていくか。これが最優先課題であると言っても決して過言ではないというふうに思われます。そこで、日出町にとって、取り組むべき重要な課題の一つとして、ふるさと納税を活用して、いかに短期間で劇的に収入をふやしていくか。これにかかっているのではないのでしょうか。

ふるさと納税というのは、2008年に始まりました。2008年に始まりましたが、近年は急速にこのふるさと納税の利用者がふえています。直近の2年間を見ても、2015年、寄附額が全国で1,471億円ありました。2015年は1,471億円です。ところが、2016年には2,540億円、全国で2,540億円まで、ほぼ倍増しています。市町村別に見ていくと、2016年、2016年には、これお隣の宮崎県になりますが、都城市が73億円、1年間で73億円集めています。そして、最新の2017年の数字、これは、まだ、恐らく総務省公表してないと思いますが、新聞報道等によれば、大阪府の泉佐野市が130億円に達する寄附金を集めたという報道もあります。この130億円といえば、日出町の年間予算をはるかに上回る寄附金を泉佐野市は1年間で集めたということになります。そして、このふるさと納税で集めた資金は、高齢者福祉や子育て支援など自由に使うことができます。実際に豊後高田市ですね、豊後高田市は、先月、幼稚園、小中学校の給食費と高校までの医療費の無料化を決定しました。そして、財源は何を財源にするかという、毎年1億5千万ほどあるふるさと納税で充当すると大分合同で、大分合同新聞の一面ででかでかと報道されていました。ですから、日出町も、このふるさと納税があれば、今、給食センターの土地問題があったり、町長が公約で掲げられた義務教育修了

までの医療費無料化、こういった問題、数々の問題が解決できるというふうに私自身は考えております。

そこで、お伺いしたいのですが、現状、日出町のふるさと納税の寄附額はどのくらいあるでしょうか。加えて、大分県の各市町村のふるさと納税の実績がわかれば、トップ3でもトップ5でも結構ですんで、教えていただきたいというふうに思います。

以降の質問は、質問席にて行いますので、何とぞよろしくお願いいたします。

○議長（森 昭人君） 政策推進課長、木付達朗君。

○政策推進課長（木付 達朗君） それでは、安部議員の御質問にお答えをいたしたいと思っております。

日出町のふるさと納税の実績及び県下の状況ということでございます。ふるさと納税制度は、先ほど議員のほうからもおっしゃられておりましたように、平成20年度に創設されまして、寄附金控除の上限額の拡大や手続の簡素化により、平成27年度に全国の寄附の合計額が大幅に増加いたしております。御質問の日出町のふるさと納税の実績は、金額についてでございますけれども、過去3年間の実績について申し上げますと、平成27年度においては、寄附件数で190件、寄附金額で1,317万6千円であったものが、平成28年には、1,342件、3,850万7千円と大きく増加しております。ただし、平成29年、昨年度については、件数、金額ともに若干減少しております、755件、3,465万円となっております。

なお、県下の状況なんですけれども、一番寄附金額を集めておりますのが、御存じだと思いますけれども、国東市、30億を超えております。2番目が、5月31日付で新聞報道等がされているんですけれども、佐伯市さん、これが29年度で13億程度。3番目が臼杵市さん、3億2,600万という金額になっております。これについては29年の実績なんですけれども、4月時点の県の調査の取りまとめをしたものでございまして、決算の確定数値ではございませんので、御了承をお願いします。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） ありがとうございます。今、課長おっしゃられたように、日出町のふるさと納税の寄附額は3千万円程度ということであれば、この大分県下でも、恐らく下位のほうではないかというふうに思われるんですが、その要因は何だと思われませんか。また、具体的に、解決策として、現状どんなことに取り組んでいるのか、教えていただきたいというふうに思います。

○議長（森 昭人君） 政策推進課長。

○政策推進課長（木付 達朗君） 寄附件数及び寄附金額が低調な原因といたしましては、多くの寄附を集めている市町村と比較しますと、登録するポータルサイトが一つであることや、返礼品

の種類少なさに加えて、情報発信などのPR不足等が上げられるのではないかと考えております。

また、平成29年4月の総務大臣通知、返礼品の割合を3割でやりなさいという指導助言があったところです。これを踏まえて、昨年9月に従来4割だった返礼品割合を国の指導に基づいて3割に引き下げた影響も少なからず、要因としては上げられるのではないかと考えております。

今後の対応策ということなんですけども、とりあえず、返礼品競争という部分は確かにございまして、私もポータルサイトを見てみますと、もう買い物感覚で寄附をするという状況がございまして。その辺については、ポータルサイトの拡充。今は、一つのポータルサイトしか持ってないんですけども、このサイト数を拡大して、要はデパートで言うと店舗数をふやすという考え方も検討してまいりたいと思いますし、返礼品の品数、これについても、売り場面積の拡大という考え方に基づいて、返礼品、現在150ありますけども、その拡充に向けて取り組むところでございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） ありがとうございます。今期は、ポータルサイトの拡充や返礼品の拡充を通して、ふるさと納税の拡大に取り組むということでございますが、こういった解決策に取り組んで、今年度は幾らの寄附額を目標にしているのでしょうか。

○議長（森 昭人君） 政策推進課長。

○政策推進課長（木付 達朗君） 先ほどの答弁に加えて、昨年度の平成29年度の寄附額の分析をしておりますと、全体の8割を寄附金額が1万円から5万円に対する寄附をされた方が多いという結果が出ております。これに、先ほどに加え、この辺の寄附に対する返礼品の充実も考えてまいりたいと思いますし、今、御質問の本年度の30年度の数値目標としては、返礼品の品そろえを100品目ふやして、現在155あるんですけども、250以上を目指すと、と同時に寄附金額については4千万という目標を持って取り組んでおります。いずれにしても、ふるさと納税を貴重な財源と位置づけし、寄附金獲得に向けて知恵を絞ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） ありがとうございます。今年度は、目標、大体前年度から500万円増の4千万円を目標として、ふるさと納税に取り組むということでございましたが、これ若干厳しいことを言うようですが、目標額はぜひとも、もっと大幅にアップしていただければなというふうに、私、思っております。と申しますのも、今、ふるさと納税を急増させている自治体が相次いでいます。例えば、新聞報道でも、こんな景気のいいニュースが次々と流れて

います。高知県安芸郡奈半利町では、ふるさと納税の寄附額が2017年4月から12月に35億円を超えた。過去最高だった16年度の20億4千万円を既に上回り、前年度比の2倍に上ると。寄附の受付先に、一昨年冬から大手サイトの楽天を加えたほか返礼品数をふやしたことが奏功し、18万件余りが集まったと。例年最も多く集まる12月はおよそ22億円で、大晦日1日だけで3億円を超えたということになっています。4月から12月の総額はおよそ35億円に上り、1月も1億2千万円を突破。寄附額の半分は、半分近くは楽天経由で、独自ポイントがたまる点などから寄附者がふえたと見られると。

また、同じ九州で佐賀県小城市という地方自治体があるんですが、この佐賀県の小城市では、ふるさと納税額が年度末までに18億5千万円に達する見通しとなり、市は17日の臨時議会に2億7千万円を追加した一般会計補正予算案を提案、可決されたと。前年度3億円近く上回り、市の過去最高額となると。市によると、昨年11月におよそ3億円、12月はおよそ8億円と急増し、累計額が年末までにおよそ17億円と前年度の総額である16億円を超えたと。17年度当初予算では15億円の寄附額を設定していたため、補正したということです。

また、さらに、同じ大分県では、先ほどお話あったと思いますが、佐伯市が昨年1年間だけで、8億6千万円もふるさと納税を増加させ、13億5千万円に達したというニュースが、これ5月31日付の大分合同新聞で報道されていました。これらのほかの市町村の景気のいい話が真実ならば、もちろんニュースで報道されているんで、真実ではあるんですけども、日出町もたったの500万円増の4千万円を目指すのではなくて、短期間で5億円とか、10億円、そういったふるさと納税額をアップさせることも決して不可能ではないというふうに私は考えています。ただ、どこに問題があるのかというふうに考えると、やはり、それは取り組み方にあるんじゃないかというふうに考えています。現状、ふるさと納税は、日出町どういうふうに取り組まれているかという、政策推進課の管轄です。そして、担当表を見ると、担当表をいただいたんですが、担当表を見ると、担当者がもう幾つも幾つも担当している業務の一つとして取り組まれています。私は、一般企業にかつて勤めていましたが、一般企業でも、こういったマーケティング、マーケティングと呼ばれる物を販売する専門部署で取り組んだとしても、5億円、10億円、この収入を上げることは非常に難しいです。一般企業がそういった専門部署で取り組んでも難しい。そういったことを専任ではない担当者が片手間にやって成果を上げる。これは当然無理があるというのはわかり切ったことだというふうに思います。

そこで、町長にお伺いします。ほかの市町村では、外部の専門家をリーダーとして雇用し、専任の組織でふるさと納税に取り組んでいるケースもあると思われませんが、日出町では、今後、どのような方針、組織で、ふるさと納税に取り組みますか。お答えいただきたいというふうに思います。

○議長（森 昭人君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 安部議員の御質問にお答えをいたします。

ただいま専門部署の必要性について御質問がございました。日出町は平成28年4月から29年6月までの間、再任用職員1名を専任職員として配置した経過がございますが、当該職員が事情があって6月に退職後は職員2名が通常業務と兼任しながら業務に当たっているというのはおっしゃったとおりでございます。新たな寄附者の拡大等に取り組むということで、ただいま政策推進課長のほうから説明を申し上げましたけども、その中で、ポータルサイトの拡大、それから返礼品の増に取り組む中で、寄附額の拡大に取り組んでいこうということでございますので、その進捗と合わせながら、組織の必要性を一緒に考えていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。ふるさと納税というのは、短期的に収入をふやすだけじゃなく、返礼品、返礼品もございまして、返礼品は日出町産の製品を充当するために日出町の事業者の収入アップにも貢献します。例えば、10億円のふるさと納税があれば、返礼品割合を3割とするならば、日出町内の事業者に3億円もの経済効果が見込まれるということになります。今や、地方自治体の競争は激しくなっていて、富める町はますます豊かになりますし、貧しい町はますます貧しくなっています。今後、このふるさと納税で、ますます市町村間の格差が開いていくことを勘案すれば、早期に、そして、真摯にふるさと納税に取り組んでいただいて、日出町の将来に投資する資金、そして、町民への充実したサービス提供につながる資金の増加に努めていただきたいというふうに思います。

ふるさと納税は以上で終わりますして、続いて、川崎工業団地について質問させていただきます。この川崎工業団地については、過去の議会、そして、本議会でも、既に阿部真二議員がきのうの一般質問で質問しておられますので、重複するところは通告書の内容を若干変更して質問したいというふうに思います。

まず、最初に、入居率の質問ですが、この入居率の質問に関しては、平成29年6月の定例会で、やはり、議会報、私読んだんですが、平成29年6月の定例会で、やはり、同じ阿部真二議員が質問しておりまして、そのとき、商工観光課課長のお答えもされています。そのときには、26%になっています。平成29年6月、1年前ですね、1年前の議会では26%の入居率ということで、この際は回答しているんですが、加えて、この質問の際に商工観光課長は、平成29年度末までに50%を達成するというふうに発言されていますが、実際約束どおりに現状は50%を超えているのでしょうか。現状の入居率を教えてくださいというふうに思います。

○議長（森 昭人君） 財政課長、白水順一君。

○財政課長（白水 順一君） 安部徹也議員の御質問にお答えします。

入居率ということでございますので、あそこを管理しております財政課のほうからお答えいたします。

現在、川崎工業団地、工場と事務所と合わせて、貸し付け可能面積は2万678平米ございます。ただいま3社企業に貸しております、合計貸し付け面積は6,541平米、入居率は31.6%となっております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） ありがとうございます。現在の入居率が31.6%ということで、1年前よりも5.6%の進捗があったということで、大変な進捗があったというふうに思うんですが、もし、この川崎工業団地が全て埋まったとすると、年間幾らぐらいの賃料が見込まれるんでしょうか。教えていただきたいというふうに思います。

○議長（森 昭人君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 先ほど申しましたように、貸し付け可能面積から現在の貸し付け面積を差し引きますと、1万4,137平米となります。工場棟の1平米当たりの貸し付け面積が共益費を含めまして、3,700円でございますので、およそ5,200万円の増となる見込みとなっております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） ありがとうございます。このような企業誘致は、私自身は町長によるトップセールスも非常に重要だと考えています。現状、町長によるトップセールスも行われているのでしょうか。もし、行っているなら、その数は何社ぐらいなのでしょう。そして、また、もし、行っていないのなら、その理由もお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長、藤原寛君。

○商工観光課長（藤原 寛君） それでは、安部議員の御質問にお答えをします。

昨年度、企業訪問をした際に、町長同行していただいたのが1社でございます。当然、東京、関西、九州内等、ある程度、担当課のほうで、めどといたしますか、あと一押しという際には、上司のほうと同行してお願いに行っているところが現状になっております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。まだまだ、入居率が31.6%ということで、数多くの企業入居する可能性もあるというふうに思われますので、ぜひとも、トッ

プセールスにも力を入れていただきたいというふうに思っております。

こういった工業団地も、現状は各市町村で激しい誘致合戦が行われています。つい先日も、玖珠町で国産の合板、最大手のセイホクグループの新栄合板工業が90億円を投資して、工場を建設するというニュースが大分合同新聞に掲載されていました。特に、この川崎工業団地の場合は既存の古い施設に企業を誘致するというので、他市町村の工業団地に比べて、条件面で折り合いをつけることが難しいというふうに思われます。ただ、早期に企業を誘致して、100%の入居率を実現しなければ、もう老朽化が、私も視察行ったんですが、老朽化がどんどんどんどん進んで、最悪の場合、廃墟となりかねません。また、毎年、日出町に入るべき、先ほど財政課長からもお話ありましたが、日出町に毎年入るべき5,200万円が入ってきておらないと。これは、このような多額な機会損失が発生しているという事実を厳粛に受けとめていただいて、今まで以上に、必死になって、営業活動にいそしんでいただきたいというふうに思います。

それでは、続きまして、3つ目の質問になりますが、日出町の観光政策について伺います。

日出町は、観光にも力を入れているというふうに思いますが、現在の観光客数と今後の目標、教えていただきたいというふうに思います。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） それでは、御質問にお答えをいたします。

直近でございますけども、平成29年の観光客数は113万人で、今後の目標としましては、第5次総合計画の中間目標で上げておりますけども、平成31年150万人を目標値として上げているところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。

大分県の観光実態調査によれば、県内に立ち寄った市町村、これを割合で見えていきますと、別府市が23.3%で最も多く、次いで由布市の20.7%、日田市が13.9%、そして、大分市の12.0%、宇佐市10.0%の順になっています。日出町はどうかというふうに見ていくと、6%しかないわけです。6%。ですから、いわば、観光客が余り立ち寄らずに、現状スルーされる町というふうになっています。これは恐らく観光客の中に、別府や湯布院と言えば、温泉というイメージがすぐ頭の中に浮かぶと思うんですが、じゃあ、日出町と言えば、何なのかと。そういったブランド化が、まだ、余り浸透してない。うまくいってないということに起因しているというふうに思われます。

そこで、商工観光課の課長に伺いますが、現状日出町の観光でアピールしたいもの、または、観光の目玉というものは何なのか、教えていただきたいというふうに思います。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 日出町観光の目玉という御質問でございますけれども、当然、日出町にも観光資源数多くあると思っております。例えば、日出城址周辺や大神海岸線等の資源、まだ、あるんですけれども、その中で、特に人口が3万人に満たない当町へ立地を平成3年にさせていただいたハーモニーランドであると認識をしております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。非常に私自身も同意する面が多々あるわけですが、私も、この日出町は、サンリオのハーモニーランドを核にして、観光を推進していく政策には非常に大賛成しております。サンリオのキャラクターであるキティちゃんは世界中にたくさんの熱狂的なファンもいますし、これも、ニュースで報道されましたが、6月30日から、山陽新幹線でキティ車両が導入されるということなんですが、1番列車には予約が殺到して、プレミアムチケットになっているということです。そこで、例えば、日出町でも、新幹線は通ってないんで、キティバスみたいなものを走らせれば、多くの観光客の注目を浴びることでしょうし、役場前の、この通りですね、役場前のこの通りを通行どめにして、1日でも通行どめにして、サンリオのキャラクターのパレードなんかを実施すれば、県内外から多くの観光客が見込めると思います。ですから、ぜひとも、今後とも、サンリオとの連携は深めていただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問に移りますが、大分は、ことし、国民文化祭、来年はラグビーワールドカップと大きなイベントが目白押しになっています。国内、そして、海外からも多くの観光客が見込まれますが、日出町は、このイベントに便乗して、観光客を取り込む方法、これ検討しているでしょうか。お答えいただきたいというふうに思います。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） それでは、全国国民文化祭、障害者芸術・文化祭、並びに、ラグビーワールドカップの件でございますけれども、まず、国民文化祭につきましては、本町では10月6日から11月25日までの51日間実施をするわけございまして、もう117日ぐらいに迫っておるところでございます。それで、例えば、リーディング事業と分野別事業等がございますけれども、特に、リーディング事業の中で、特別なゲストを呼んで、当然、県内県外がもちろん来ていただけるような取り組みを今町のほうで練っているところがございます。

それから、ラグビーワールドカップにおきましては、2019年10月に5試合予定をされていると思っております。6月9日にテストマッチがあったのは御承知だと思うんですけれども、そのテストマッチで、約2万5千人という報道がありました。その中で、18市町村も、全部PR

という形をとらせて、出店をしております。当然、本番に向けて、いかに周遊をさせるかというのは、当然、当町でも考えていかなければいけないということで、今ここで、こういう施策ということはありませんけども、今後、国文祭とともに考えていきたいと思っております。また、別府市もキャンプ地等にもなっていますので、当然連携等も今後必要になろうと思っておりますので、進めていきたいと考えています。

以上です。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。国民文化祭やラグビーワールドカップは、国内海外から大変多くの観光客が押し寄せる大きなイベントになりますので、何とか、一人でも多くの観光客に大分県に日出町ありというような印象を植えつけることができるよう御尽力いただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問ですが、観光客の統計を調べてみると、昨年、別府市は日帰り、宿泊を含めまして、合わせまして、およそ800万人、湯布院を要する由布市はおよそ400万人の観光客があったそうです。ほかにも、日出町の近隣には、昭和の町で有名な豊後高田市や仏の里の国東市、そして、城下町の杵築市など観光客が多く訪れる場所があります。この観光というのは、観光の振興というのは、日出町単独ではなかなか観光客を呼び込むことは難しいというふうに思われますが、このような近隣の市町村を訪れた観光客に、ついでと言っては語弊がありますが、日出町にも寄ってもらう。そうした方法が手取り早く観光客をふやす方法の一つだというふうに私は考えているんですが、日出町としては、このような近隣の観光地から観光客の流入を図るために、現在どのような対策を実施していますか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 先ほど質問にありました観光の目玉ということなんですけども、当然、各市町村においては、目玉等が、目玉というか、テーマ、主となる観光が違うということがまず前提にございますけども、当然、周遊促進の面からいったら、仕組みを考えて進めなければならないと、ということは思っております。一つの策として、近隣には、空、陸、海の玄関口がまとまっておる国東から別府にまとまっております。その仕組みづくりをつくるに当たって、まず、3つの玄関口をどう周遊観光を目的として仕組みをつくるのか。それで、ハード面ですね、地域、また、各市町村の観光資源、それから交通の拠点等とも連携をして、進めなければいけないと思っております。これは当然行政と各それぞれの観光協会とが一緒になって話を進めなければいけないと思っておりますので、それは進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。日出町では、観光面では、まだまだ取り組むべき課題が山積みとなっているというふうに思います。今後は、スルーされる町ではなくて、観光客が確実に立ち寄りたい場所となるよう、観光政策を実施して、ぜひとも観光客数も、800万人の別府や400万人の湯布院に匹敵するような観光地を目指していただきたいというふうに思います。

それでは、最後の質問に移ります。

最後は、給食センターについて質問させていただきます。

現状、給食センターでは、日出町内の幼稚園、小学校、中学校のおよそ3千人を対象に毎日給食を提供しているということですが、金額ベースで、年間どのくらいの食材を仕入れているでしょうか。

○議長（森 昭人君） 学校給食センター所長、一丸博文君。

○学校給食センター所長（一丸 博文君） それでは、安部議員の御質問にお答えします。

当給食センターでは、1日当たり約2,800食の給食を毎日提供しております。

給食センターでは、年間どのくらいの食材を購入していますかという御質問ですが、平成29年度実績で申し上げますと、食材費の支出総額は1億4,127万円でございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。約1億4千万円ということで、先般、私が給食センターを視察した際に、センター長から、食材は極力日出町産のものを使うというお話を伺いました。ただ、その後、この議会だよりを読んだんですが、この議会だよりを読むと、平成29年12月の定例会で、佐藤隆信議員が一般質問をした際に、果物・野菜を含める17.3%になりますという回答が載っていました。まだ半年しかたっておりませんので、この数字には相違ないと考えておりますが、それで間違いないでしょうか。

○議長（森 昭人君） 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長（一丸 博文君） 食材に占める日出町産の割合は何%ですかという御質問です。

平成29年度、日出町産の農水産物の購入金額が2,569万円でありまして、食材費支出額の18.2%になります。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部徹也君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。18.2%まで上がったということで、若干数字は上がっているんですが、極力日出町産の食材を使う方針の割には、私はちょっ

とこれは低い数字じゃないかなというふうに感じています。

そこで、この日出町産の食材を使用する上での問題点というのはあるんでしょうか、お伺いしたいと思います。

○議長（森 昭人君） 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長（一丸 博文君） 日出町産の食材を使用するに当たって問題はありますかという御質問です。

当センターとしましては、年間を通しまして安全で安心な野菜等を、量、価格ともに安定して提供していただけることを望んでいます。野菜につきましては、JAべっぴ日出やサザンカクロスの皆様の御協力をいただきまして入荷しておりますが、数量的には不足しております。その不足した分につきましては、町内の青果業者に入札という形で購入しております。

以上の状況から、地場産食材利用促進上の課題としては、数量確保が困難。これは天候等の影響もありますが、安定した入荷が難しく、品種名、品数におきましても1日の食材として賄える地場産の品種では、ニラ、ネギ、キュウリ、ミカンぐらいであります。ほかの品種は、到底地場産だけで賄うことができないということが大きな課題だと思っております。

しかしながら、当センターといたしましては、食育の観点あるいは生産者所得向上に少しでも寄与できればと思い、多少価格が高めであっても、少量であっても、優先的に地場産食材を使用することに努めております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 安部徹也君。

○議員（3番 安部 徹也君） どうもありがとうございます。給食のように、地消するものにつきましては極力地産品で対応することを心がけていただきたいというふうに思っております。

例えば、もし日出町産100%を達成できたのなら、年間1億円以上のお金が日出町の農業関係者や漁業関係者に流れることになって、1次産業に携わる人の所得向上にもつながります。

また、現在、日出町の農業では、耕作放棄地や若い世代の農業離れ、農業従事者の高齢化など、問題が山積みになっています。これらの問題の根幹に何があるのかというと、やはり農業をしても収入が余り見込めないという現状があるんだと思います。

そこで、給食への食材提供ができればこれはもう計画生産できますから、安定的な収入も見込めます。そして、若い世代に耕作放棄地を提供して、必要な農産物の生産を促すような政策も実施できると思います。また、日出町に対象者がいなければ、あの耕作放棄地を無償で提供するかわりに農業に従事するという条件で全国から移住を募れば、若い世代の移住促進にもつながると思います。こういうような仕組みが実現できれば、耕作放棄地や農業従事者の高齢化、そして移住促進という問題を一気に解決できる可能性も十分考えられるのではないのでしょうか。ぜひとも

給食センターの地産地消の推進から、日出町の1次産業の底支えをあわせてお考えいただいて、諸問題の解決に取り組んでいただきたいというふうに思います。

以上で、私からの一般質問を終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

.....

○議長（森 昭人君） 10番、岩尾幸六君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） おはようございます。10番、岩尾幸六です。今回は、川崎工業団地の企業誘致、行政区の解散問題、通学児童の交通事故の防止についての3点について質問を行います。

最初の企業誘致に関しては、昨日、阿部真二議員、本日、先ほど安部徹也議員が質問いたしました。重複する点に関しましては再確認しながら進めさせていただきます。

先ほどから2名の新人さんがすばらしい質問を行ってききましたので、私も頑張っって質問をしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは、最初の質問です。企業誘致に関しては、さまざまな業務の上で成立するものですが、その多くの業務を担当課、商工観光課ですが、何人の職員で業務に携わっているのか、お聞かせください。

今後は質問席より再質問させていただきます。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長、藤原寛君。

○商工観光課長（藤原 寛君） それでは、岩尾議員の質問にお答えをいたします。

企業誘致を推進する担当者の人数はという御質問でございます。

現在、商工観光課において担当者は2名になります。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 企業誘致を促進させていく上で、職員は2名というふうな回答でしたが、この2名で本当に十分な人数ですか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 専属が2名でございまして、当然、私と補佐が、担当がおりますので、総合的に見て4名で誘致活動を行っているというのが現状でございます。

で、人数の配置については、誘致に特化すれば足りないという認識は今持っておりません。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 専任2名と課長と補佐ということで4名で、それぞれが専任じゃなくて、いろんな業務と兼ね合わせてやっていると思いますが、それぞれ皆さん方はその民間

企業でいう営業マンというふうな気持ちでこの誘致に取り組んでいるのか、その辺の気持ちをお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 先ほど、入居率等も御質問もございましたので、目標値にはまだまだ不足をしております。当然、目標に沿った日々業務を推進しているところでございます。以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 私が今なぜ皆さん方が営業マンという気持ちで業務にさしているかというのは、また後で質問に出てきますので、まず最初にそういうふうに聞きました。

次に、現時点での交渉中の企業は何社あるかということで、昨日、阿部議員も同じ質問をされていましたが、今、7社あると。で、川崎工業団地が5社、その他で2社の合計7社であるということで聞きましたが、この7社というのは、平成28年から32年までの第5次総合計画の中でうたわれているんですが、今現在7社というのは、計画どおり進んでいるんですか。それとも、交渉中の企業が計画よりも少ないのか、多いのか、その辺をお聞きしたいんですが。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 交渉中の企業については、特に目標設置はしておりません。先ほど答弁しましたが、第5次の中で中間でいくと、6社の目標値を持っているところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 今、その7社です。ことしとか交渉中の目標はないと言うんですが、やはりことし何社と交渉したいという目標は立てなきゃいけないと思うんですが。これは今後の参考にしていただければいいと思うんですが。それによっては、いろんな企業さんとの交渉の機会だとか、回数だとか、そういうところにつながると思いますので、ぜひ目標を立てて進めたいというふうに思います。

じゃ、ことし、今7社と交渉中とあるんですが、今年度、何社と契約が成立させたいという目標は持たれていますか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 目標という御質問でございますけども、先ほどの答弁の中にありましたけども、工場棟、事務棟の目標は50%に達していませんので、今、32ぐらいになっています。残り約20%弱です。面積にしますと5千から6千平米になりますけども、それを第1目標として、それが何社かと聞かれても、それはちょっと答えられない状況でございます。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） やっぱり、そこが一番大事だと思うんです。50%にするには、あと四、五千平米ということは、やっぱり1社では大き過ぎる。じゃ2社ぐらいが要るねというぐらいの目標を立てていかないと、ずるずる行ってしまうと思うんです。それが今までのおこなっている一つの理由ではないかと思います。何事に対してもやっぱり目標を立てて、ことしは2社必ず契約させるんだと。そのためにはどうしなきゃいけないというのが、やっぱり施策をつくらなきゃいけないと思いますので、ぜひその辺の目標は立てていただきたいと思います。

で、昨年度、川崎工業団地に東和運送株式会社さん、それから、大神の真那井に株式会社大分クロスケミさんとの協定が成立したとお聞きしていますが、この2社だけだったんですか、ほかには何か小っちゃいところかございましたか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 今、議員が言われた2社でございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） この2社と協定が成立したということに関しましては、やはりいろんな交渉を重ねてきたと思うんです。で、昨年度はこの2社以外にも多くの企業と交渉を重ねてきたと思いますが、町が訪問した企業数、どれくらいかと質問したんですが、先ほど、安部議員のほうが質問しましたら、昨年度は1社と。これは間違いないですか。（発言する者あり）あつ、町長が行ったのが1社ですか。

では、ごめんなさい。質問します。昨年度訪問した企業数はどれくらいあるのか。で、業種はどのような業種で訪問されたのか、その辺をお聞きしたいと思います。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 川崎工業団地関係で申し上げますと、8社で、そのうち製造業者関係が7社、そのうち1社が町長と同行しております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 今、製造会社が7社、その他が1社、計8社を訪問しているということですが、じゃ、トータルで何回ぐらい、その8社に対しては訪問されましたか。私が聞きたいのは、先ほど営業マン的な考え方を持っているかというのは、ここなんです。車を売りたい、それから保険の勧誘さんもそうです。ある人とコンタクトしたら、何回もお願いに行ったり、交渉したりして成立をさせているんですが、町としては何回ぐらい訪問したかというのを聞かせください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 回数でございますけども、同じ業者に2回行ったのが1社、2度訪問したのが1社です。というのは、これは単年度の回数でございます、当然28年度等も関係をしていきますので、それから29年度も継続しております。29年度で言えば、先ほど言った2回訪問した企業は1社になります。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） じゃ、その他の企業は1回ですか。2回行ったのが1社ですね。あと残りの7社は何回ぐらい行かれたんですか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 29年度で申し上げますと、1社1回でございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） これで企業が来てくれるとは到底思えません。これ皆さんの見方だと思います。

で、私が聞いたところによりますと、町にいろんな企業誘致のことを打診したと。けども、町がいつも返事をしてくれなかったというのが3社ぐらいあるということでお聞きもしているんです。やっぱり、町のほうも企業さんがこういう誘致がありませんかと聞いたときに、川崎工業団地があります、ぜひ見に来てくださいと。一度見に来てくれた企業も、どうでしたかとか。やっぱり直接顔を会わせて、やはりコンタクトをとって行って、どこがまずいいのか、どこがいいのかというのを聞いて、次の事業に進めていくべきだと思うんです。

で、多いところで2回行って、あとは1回です。これは何も企業誘致じゃないです。顔合わせみたいなものですから。ぜひとも今後は多くの企業に行っていただきたいというふうに思います。

ちょっと繰り返しますと、今、8社ありました。で、2回訪問されたところが1社ありますと。そのほかは1回ですということでしたんですが、この8社全ては日出の工業団地も含めてですけども、見学に来てくれたのは何社ぐらいあるんですかね。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 川崎工業団地に見学に来た企業については全てでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） じゃ、7社全てが来てくれたということですね。

で、昨日、阿部議員が質問されたときに、60社から70社あると。これはもう延べ数でござ

いますね。で、去年は、じゃ、その7社を含めてそのほかに何社ぐらい見学に来られたんですか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 昨年度の実績で申し上げますと13社で、そのうち製造業関係が12社となっております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 12社、ここもかなりの会社が来てくれたんですが、なぜ契約までに至らなかったのか、何かその辺のお答え、わかりますか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 13社の企業が来たわけですがけれども、当然企業の業種また規模、また、企業それぞれの計画の中で、川崎工業団地がマッチしない点もあろうかと思えますけれども、当然企業それぞれ計画書等を作成するに当たって、まだ返事もいただいている企業も含まれているところがございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） じゃ、次に行きます。川崎工業団地で操業している4社、運送会社2社も含めて4社がしているんですけども、町が企業訪問をして契約が成立したのは、多分全部成立したと思うんですが、もし町が訪問しなくて、向こうから来て成立したところもあるんだろうと思うんですが、その辺をちょっとお聞きしたいんですが。

それで、成立するまでにどれくらい企業訪問して成立したのか、その辺もちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 現在、操業4社の御質問でございますけれども、町が訪問という御質問ですけども、これの訪問がいつ時点かという概念もありますけれども、担当課としては、4社のうち3社について、町の訪問等で操業をしていただいたというふうに認識をしております。

それから、期間等は、一番遠方になりますと大阪になります。あとは別府市、それから日出町内の企業というふうになりますので、一概に期間というのはなかなか述べることはできないんですけども、回数的には2回から3回ほど訪問並びに協議・打ち合わせ等は行ったのが現状でございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 二、三回の訪問とかで、打ち合わせで誘致して、来てくれたと

というのは、本当にやっぱし少なくなくて、一番効率のいい誘致というか、あれの決め方だと思うんですが、やはり、先ほど私の勝手な解釈で、50%達成させるためには2社ぐらいが必要じゃなからうかということで申し上げましたが、やはりコンタクトをとった企業に関しては、もうしつこいぐらい訪問して、先ほども言いましたように、どこが悪いのか、どうしたら借りてくれるのかとか、そういうところを詰めていっていただきたいと、今後ともやっていただきたいというふうに思います。

で、企業さんもやはりいろんな面で日出のいいところとか、この工業団地のいいところ、それから不便なところというのはやっぱり調べると思うんです。その辺の情報も逆に聞き出して、今後の進め方にぜひ生かしていただきたいというふうに思います。

じゃ、この企業誘致、誘致を探している企業というのは、その情報収集というのはどのような手段でとっているのか。県の指導なのか、町独自で探しているのか、この辺をお聞きしたいんですが。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） それぞれの企業の情報収集につきましては、例えば、在京・在阪等の日出町の出身者また日出町の関係者、また近隣の方等の情報、それから、先ほど議員がおっしゃられました県並びに東京・大阪それぞれの事務所を初め、金融機関、それから、今進出している企業のほうからも情報を収集するように努力しているところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） いろんなところからの情報というのは、この情報網が大変大きくて、いいと思うんですが、じゃ、情報をいただいてから皆さんが交渉、訪問するまで、どのような手段をとっているのか。わかりますか、情報をいただいてから訪問に、企業とのコンタクトをするまで、どういうふうな行動をとっているのか、その辺をお聞きしたいと思います。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 手段としては、少しでも情報をいただければすぐに訪問をするようにしております。当然、県等からの情報が入れば、県の職員等にも同行していただいて、詳細といいますか、計画を聞くように努力しているところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 情報はいただければ、すぐに訪問するということです。

それでは、今年度の企業訪問する予定企業の数と、やっぱり訪問回数はどれくらい行かなきゃいけないかなというのは、どのようにお考えですか。訪問企業数と予定訪問の回数をお聞かせく

ださい。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 今年度の訪問の予定数と訪問回数でございますけども、関東・関西を中心にして約10社の訪問で、回数としては4回ほど予定をさせてもらっております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 10社で4回ということは40回。10社で4回ですか。ということは、行かない企業もあるということですか。この辺をちょっともう一回。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 当然、関東・関西になりますと、もちろん可能性があれば1社でも訪問しますけども、1回当たり1社から2社、複数の訪問を予定しているところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） わかりました。ことしはやっぱり10社を目標にするということですね。訪問回数というのは、今言いましたように、1回につき2社、3社重なってするというふうに解釈いたします。

で、こういうふうに10社行くという目標を立てていただきましたら、やはり先ほど言いましたように、1回で終わらなくて、何回もそのついでにありましたら、商工課長なり、今度は町長なりが、もうかわってでも結構ですのでしつこく行って、交渉を続けていっていただきたいというふうに思います。

次の8番に行きたいんですが、よろしいですか。

○議長（森 昭人君） どうぞ。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 今年度の訪問企業数の計画は、先ほど10社ということで、さきにお聞きしたんですが、担当職員がふえた場合、今2名でやられている。それから、課長とトータルで4名ということでは言われましたけども、これが職員がふえた場合は訪問する企業もふえるというふうなお考えでしょうか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 担当職員数と訪問回数の関係は、私はないと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） その理由ですけども、職員がふえれば、やっぱり行く会社もふ

えていくんじゃないかと単純に考えるんですけども、そういう職員数と訪問数が一致しないというのであれば、何かそういう理由というか、何かお持ちですか。職員数がふえても企業訪問する会社の数が変わらないというのはなぜでしょうかね。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 企業のほうからそういうアプローチが今までずっとあっているわけですけども、今の現状で全て対応できていると。これはあくまで最初の窓口でございますけれども、対応できていると、今は思っております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 現状、もう結果から言いますと、余り誘致されていないと、目標にも達成していないと。3割ぐらいですね。

じゃ、これからふやそうとしたときは、今までの企業訪問数だったら絶対達成しないと思うんです。やはり人数をふやして、企業の訪問数もふやしていかなければ達成しない数字だと私は思っております。

で、先ほど安部議員も、ふるさと納税のときに組織化の提案もございました。私も企業誘致を加速させるためには、やはりいろんな企業への開拓が最も有効というふうに思っております。で、商工観光課に新たに民間企業をリタイアした、そういう有識者を集めた企業誘致特別チームとかいうところを設けてはどうかというふうに思うんですが、そこ、町長はどういうお考えでしょうか。そういうまた特別チームというのを設けてやるべきか。もう、このままでいくのか。この辺のお考えをお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 企業誘致というのは、まず、進出したいという企業の情報がないと、こっちからセールスのように売って回るといふわけにもなかなかいかない行政の分野だと思っております。

そういう意味じゃ、まず情報の収集をどうするかと、そっちのほうが重要だと思っておりますから、専門的な職員を置いてするということは、特に考えておりません。

企業誘致が話がある程度具体的になって、そのときに商工観光課だけでは、これは対応が無理だろうと。なかなかありませんけども、例えば、中津のようなダイハツが出てくると、ああいった問題になったときには、当然人数だけでも、商工観光課を幾らふやしても対応できないでしょう。それは都市建設、道路、水道、それから財政課も関係してくるでしょうし、もしかすると、福祉対策課、子育て支援課もかかわってくるかもしれません。そういったときにつくるべき組織かなというふうに思っております。

まず、企業誘致の情報を集める。そして、そういったところにこちらからアプローチをかけるというところから始めていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 町長が言われるのは、もう今までのやり方で行くちゅうことで、それが今の結果につながっていると思うんです。私が先ほど言いました民間企業のリタイアした人を集めてつくったらどうかということで、もうちょっと名前を出して失礼なんですけれども、テキサスにおられた方は、今はもうほとんど日本全国に散らばっている方もいらっしゃいます。そういう方々がいろんなところでのつながりがあって、企業を探していることもあります。私も耳にするぐらいですから。

ですので、やはりそういう特別チームを2年なり、3年なりの期間でつくって、一遍やってみるべきではないかと思うんです。それが、一つは町の税収にもつながると思います。1社でもふえれば、早く来ることによってやっぱり税収もふえるというふうに思いますので、ぜひその辺を早急にもう一度考え直していただいて、やっていただければなというふうに思います。

で、ここの企業の最後の質問なんですけど、ことし3月だったと思いますが、九州コークの山鹿工場さんが、やっぱりテキサスの川崎工場を見に来られたというときに、見に来られたけども、契約は成立せずに、自分のところで1億円で工場を建てたというふうにお聞きしておりますが、ここのところの何で起業に至らなかったのか、詳細なところをお聞かせ願いますでしょうか。わかりますか。私が言っているのがわかりますか。

○議長（森 昭人君） 通告にないようですので……。

○議員（10番 岩尾 幸六君） じゃあ、なぜ、私がそういうふうにしたかちゅうと、まず私聞いたのは、工場棟の中を見たときに余りにも荒れ果てていた。自分ところでやるのは、ちょっと予算かかり過ぎる。地震対策はされてなくて、いつ耐震工事されますかと思ったら、年末までかかりますということで、年末まで待てないということで、自分ところでやられたということなんで、町長、どうでしょうか。川崎工業団地、ある程度、コストをかけて、先行投資で中を整備して、それから企業さん来てもらって、貸し出すというようなところを考えないでしょうか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 川崎工業団地の一番大きな課題は、従前テキサス・インスツルメンツが使っていた工場だということだろうと思います。これ、もちろん、テキサスが、自社が使いやすいような構造にして使っていた工場です。そこをこっちが譲り受けて、これからどういう企業に貸し出すかというところは、まだ、借り受け先の情報とか、希望とかをとる中で、先行して、例えば、間仕切りをしてしまうと。そうしたときに、情報を得た企業が見にくると。ちょっと、こ

れ狭いですねといったことになったときには、その間仕切りは今度外さなければいけない。そう
いったことがあって、ある程度の先行投資というか、というところは、なかなか難しいなという
状況がある中ですが、一昨年度の末に空き工場拠点整備交付金を受ける中で、エレベーター
をつけたり、そういったことは行ってきたところです。どういう企業が来るかわからない中で、
あの建物に大きなお金をかけてということは慎重にならなければならないというふうに思ってい
ます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） ですから、先ほど言ったように、そういう特別チームであれば、
工場なので、どこの工場も大体似ているようなものなんです。使い勝手が。今まで来られた
70社の方々の意見なりも参考にしたらどうですかと先ほど言ったのが、やっぱり、ここなんで
す。どういうふうな形だったら借りられるのか、そういうところまで分析してやられたらどうか
なということでございますが、町長がそういうお考えでしたら、今後とも、余り誘致に関しては
促進しないんじゃないかなというふうに感じております。ぜひ、この辺も、今後検討していただ
きたいというように思います。

時間が下がってきましたので、続いての質問……。

○議長（森 昭人君） 岩尾議員、ちょっとお待ちください。

お諮りします。一般質問の途中ですが、ここで中断して、しばらく休憩したいと思います。こ
れに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 昭人君） 異議なしと認めます。したがって、しばらく休憩します。午後1時
15分より再開いたします。

午後0時14分休憩

.....

午後1時13分再開

○議長（森 昭人君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

岩尾幸六君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 時間も差し迫っております。2番目の行政区の解散については、
次回で、また、やりたいと思いますので、今回、あと残りの時間に関しましては、通学児童の交
通事故防止について質問いたします。

近年、自転車と歩行者との接触事故で、重度の後遺症や死亡事故につながっていることをよく

ニュースで聞くことが多くなってきました。町内にも大型車の通行が頻繁に多くなっております。私も、ときどき、朝夕の交通指導や児童の見守りを行っています。交差点での児童のマナー違反、それから大人のマナー違反もありますが、マナー違反や自転車通学生の危険運転をときどき目にして、危ないなと感じることが多々あっております。

そこで、小中学生を対象とした交通安全教室というのは行っているのでしょうか。その頻度とどのような指導内容か、お聞かせください。

○議長（森 昭人君） 生活環境課長、岩尾修一君。

○生活環境課長（岩尾 修一君） お答えいたします。

現在、町の主催によりまして、交通指導員、交通安全協会の職員とともに、町内の各小学校、幼稚園に出向きまして、新入学児童を対象に、毎年4月から5月にかけて、交通安全教室を開催しております。

教育内容は、DVDの視聴、協会職員による安全のための講話、それから野外での実地指導を行っております。

また、自転車教室を町内各小学校の要請を受けて、毎年3、4年生を対象に交通安全協会がDVDの視聴、講話や自転車シミュレーターによる指導を実施しております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長、小田雅章君。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） 学校における交通安全教育について、私のほうから御説明申し上げます。

小中学校において、体育、保健体育、道徳、特別活動など、学校の教育活動全体を通じて、歩行者としての心得、自転車の安全な利用、交通ルールの必要性等について、心身の発達段階に応じて指導しております。小学校、中学校とも、交通安全協会による交通安全教室に加えて、それぞれ学校独自で、年度初めに交通ルールやマナーについての集会を行ったり、学級において、交通事故防止について考える時間を持ったり、月に1回程度の交通安全教育を行っております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） さまざまな教育が行われておりまして、これは感謝申し上げます。月に一回程度やっているということで、今後も、これは続けてずっと行っていただけるんですか。はい。じゃあ、これも、やっぱり、子供のうちは繰り返し繰り返し教えることで、体に染みついてくるとお思いますので、この辺は続けていっていただきたいというふうに思います。

次に、中学生の自転車通学、この運転で危険な行為を多々見かけます。この辺の自転車通学生のための特別な教育というのは、何か行っておりますか。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） お答えいたします。

本年度、日出中学校で245名、大神中学校では112名の生徒が自転車で通学しています。それぞれの学校では、自転車の整備状況の確認を定期的に行い、学級指導などにおいて、自転車利用に関するルール遵守やマナーに関する指導を徹底しています。

また、保険加入の啓発を行うなど、保護者も含め不測の事態に対する備えについて意識の向上を図っています。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 町内で、日出と大神を合わせて、350名以上の方が自転車通学されているということですね。中に守っている方とそうじゃない方というのは、結構あるんです。何で、私、こういうふうに申し出たかちゅうと、やはり、よくニュースで耳にされるのが、小学生が60代の方をはねて、後遺症が残って、親に9,500万円の損害賠償が発生したということで、やっぱり、子供はそこまでのことを意識して運転している人は少ないと思うんです。ですので、やはり、後遺症、加害者としての立場が残るんだぞとかいうような教育指導ですか、そういうのを今後取り入れてしたほうが私はいいと思うんですが、どのようにお考えですか。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） 自転車通学生については、このほかに、通学別の指導というのも行っておりまして、中学校、学校としては、安全を期しておるところなんです、保護者に対しての啓発というのも、あわせて、今後も継続して行っていきたいと思えます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 保護者のほうも、子供さんに危険な行為はするなということで、多々、重要なことだと思うんですが、実際に運転するのは子供ですので、私、子供のほうにも、この辺の補償問題とか、加害者などをということで、やっぱり、認識を持っていただくのが一番いいかと思えますので、今後とも進めていただきたいというふうに思います。

それから、あと、最後になりますが、街頭指導は、今、よく交差点で、父兄や地域住民、それから老人会の方もそうなんだろうが、結構毎日指導を行っております。中学生を対象とした指導というのは余り目にしません、先生による街頭指導というのは、中学校は行っているんでしょうか。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） お答えいたします。

毎月第一月曜日に行う町一斉挨拶運動のほかに、例えば、大神小学校では月1回の朝の交通指導と長期休養明けに5日間登校指導を行っており、日出中学校では毎週水曜日に下校指導を行っておりますし、それ以外に、朝の登校指導も月2回程度行っております。ほかの学校についても同様の取り組みを行って、児童生徒の事故防止に努めているところです。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） 中学校も月に1回程度とか、曜日を決めて行っているということなのですが、例えば、私を感じるのは、下町です。この辺の自転車通学、歩行者も含めて、まだまだ十分ではないのではなかろうかというふうに思っておりますが、その辺での場所を指定した、水曜日の下校指導なんかは場所を指定して立たれているんですか。それとも学校の周辺なんでしょうか。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） 交通の危険が高いところは、重点的に教員が行って立つようにしております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） やはり、危ないところを立ていただきたい。それから、あと、その学校周辺だけでなく、私なんかのところも下り坂が結構ありまして、朝なんかは小学生と中学生も入りまざって通学されているのを目にします。やっぱり、地域住民等の声も聞いて、ここで、ここに立って、月1回は立って指導してくださいというような声があるところに関しては、ちょっと遠くなるかと思えますけども、出向いて行って、指導をしていただきたいと思えます。私なんかは指導するよりも、先生方が直接、今の行動は危ないぞというふうに指導していただくことが一番きくかなというふうに思えますので、今後ともよろしくお願ひしたいというふうに思えます。

ごめんなさい、そういう地域への指導というのは可能ですか。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） 議員御案内のように、学校現場を取り巻く環境が複雑化、多様化して、学校に求められる役割が拡大する中、教員の長時間勤務の改善が課題となっております。登下校時の見守り活動については、これは必ずしも学校が直接担わなければならないものではないというふうに文部科学省のほうも言っております、外部のいろいろな機関と連携をしながら、学校が子供の安全を図っていくというのは、今後も続けていきたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 岩尾君。

○議員（10番 岩尾 幸六君） わかります。先生の過重労働とかいうのが、今、働き方改革とか、いろいろな面で聞いております。それは十分わかるんです。ただ、自分たちの生徒が危険な行為をして加害者にならないように努めるのも、一つの教育の一環ではなかろうかと思っておりますので、無理をしない程度で結構ですので、月1回程度は危険なところに立っていただいて、指導を行っていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で、私の質問は終わります。

.....

○議長（森 昭人君） 12番、池田淳子君。池田淳子君。

○議員（12番 池田 淳子君） 12番、公明党の池田淳子でございます。通告に従いまして、一般質問を行います。

まず、はじめに、給食センター建設予定地についての質問をいたします。

昨日も2名の同僚議員が質問をしておりますが、重複する箇所もあるかとは思いますが、なるべく違う角度から質問していきたいと思っておりますので、明確な答弁をよろしくお願い申し上げます。

現在の給食センターは、1984年に建設され、老朽化も著しいことから建てかえに向けて検討委員会が設置され、熟慮を重ねた結果、町有地である保健福祉センターに隣接するふれあいグラウンドに決定したとの報告を受けたのは、昨年12月議会の全員協議会の場で行われました。

ことしの3月議会では、藤原地区区長会やふれあいグラウンドを利用する関係者の方たちから、ふれあいグラウンドに給食センターを建設することに反対する陳情書が提出され、全会一致で採択されました。当初予算には、学校給食センター新築工事設計委託料として、3,342万9千円が計上され、賛成多数で可決をされました。

賛成討論した立場から、再度申し上げますが、陳情書の趣旨は十分御理解いただいているとは思いますが、ふれあいグラウンドに建設することに反対するものであって、給食センター建設そのものに反対をするものではありません。予算計上する以上、どこに建設するかの根拠は必要なわけで、現時点での予定は、あくまでも予定はふれあいグラウンドに建設予定ということです。賛成をしたのは、建設費ではなく、工事設計委託料であります。討論の繰り返しになりますが、建設場所が変更になっても予算に変更はないということ。仮に予算に変更が生じた場合には補正で対応するというを確認した上で賛成したものであります。子供たちに安心安全な給食を提供するための施設は早期に必要なものであるとの思いは皆同じであります。建設予定地決定公表の過程についても、新聞報道の前に地元住民の皆さんや利用者の皆さんにしっかりと丁寧に説明をして

おくべきだったのではないのでしょうか。

そこでお聞きをいたします。昨日も答弁をされておりましたが、ふれあいグラウンドに給食センターを建設することに反対をする陳情書が提出され、全会一致で採択されたことをどう捉えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（森 昭人君） 総務課長、藤本英示君。

○総務課長（藤本 英示君） 池田議員の質問にお答えいたします。

昨日お答えした部分と重複するかもしれませんが、3月議会で、藤原地区区長会を初めふれあいグラウンドを利用されている団体の方々から、859名の署名を添えて提出された陳情書について、全会一致で採択されたものでございますので、重く受けとめるべきであると思っております。しかしながら、昨日もお話いたしましたとおり、藤原地区以外の住民の方々についても建設予定地について説明をさせていただき、御意見をいただいたことについて、町執行部で協議を行い、町長に最終的な判断を出していただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 藤原地区以外の方たちにも御意見を聞きたいということで、各地区で説明会を開催されていることと思いますが、その中で、反応をお聞きしたいんですが、どのような意見が出ていらっしゃるのか、具体的にお申しください。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 藤原地区の説明会につきましては、議員も出席されておりましたので、詳しくは申し上げませんが、ふれあいグラウンドを建設地とすることに対しまして、あの場所からグラウンドがなくなってしまうことについて反対されており、一度立ちどまって、白紙に戻して、検討してほしいということでございました。

各地区で説明させていただくことに当たり、まずは各地区の区長さん方に説明をさせていただき、その後、住民の方々に説明させていただくということで進めておりました。3月27日に日出地区区長会の方々に説明をさせていただき、4月26日には区長会総会及び6月4日の区長研修会の場でも説明をさせていただきました。その中では、検討委員会の報告した候補地とは違う場所にした理由であるとか、町の内部協議の経過がどういうふうになっているのかといったような御意見が主だったように思います。今後、さらに各地区で一般の方々を対象とした説明会を実施したいと考えております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 今申しました、3回だけですか。説明会は。まだ、数多くの方

に知っていただくためには、もっとたくさんの説明会が必要だと思うんですが、3回ですか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 今、ちょっと申し上げたところなんですけど、まずは区長さん方に、各地区の区長さん方に御説明申し上げて、その後、さらに各地区の住民の方にとりうふうに考えておりましたので、区長さん方への説明の準備をしておりました。ただ、なかなか各地区ごとに区長さん方の説明が設定できないという状況にありましたので、区長会の総会、それから区長研修会の場で説明をさせていただきました。その場でも申し上げたんですが、区長さん方への説明につきましては、そこで一段落させていただいて、この後、各地区の住民の方に説明をさせていただきますというふうに御報告したところでございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） では、その中で出た御意見ですね、具体的に言っていただけませんか。どのような意見が出たのか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 区長会の総会での場というところの記憶しているところでもよろしいでしょうか。私が記憶している範囲では、町長から説明を聞いて、その話は初めて、この場で聞いて、内容が大方わかりましたと。ですので、その場で初めて、この用地の件について、内容を把握された区長さん方も数多くいるんだなというふうに感じました。それ以外の意見等につきましては、先ほど申し上げました用地に関する決定の経緯であるとか、地元の方の意見が、藤原地区の地元の方の意見がどういうふうになっているのかといった質問が主だったように思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 区長研修会ですか、6月4日に行われた研修会の資料の中で、12月14日の全員協議会で議員に説明をしたところ、御理解をいただきましたという内容がありました。御理解をいただきましたという、私たちは理解をしたという認識ではないんですが、報告を受けたという形で、どうも、誘導的にといいますか、建設に向けてひたすら走ってらっしゃるんだなということが感じ取れたんですけども、その辺は何か意図があるんですか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 実は、研修会終わりました後、ある方が総務課のほうにお見えになっていただいて、議会の承認を得て、もう既にやったことだと私が発言したというふうに言われたんですが、こういうふうに全員協議会の場で御説明して御理解をいただきましたと申し上げま

したと言っております。議会の承認をいただく事項では、事項というか、議決をいただいて進めているわけではないというのは、各地区の説明会でも、質問があったときには御説明させていただいております。12月の全員協議会の場で御説明を申し上げたときに幾つか御質問等をいただいたと思います。代替地はどちらになるのかとか、どれぐらいのことを、代替地の規模であるとか、もう少し代替地を広げないといけないのではないかというような質問だったと思います。ですので、町のほうで建設予定地を決定して、議会に御報告したときに、決定的にその場所が瑕疵があって悪い場合には、その場で強い反対の御意見をいただけるのではないかというふうに思っております。ですので、御理解という言葉を使わせていただいたのは、その場で、そういった意見がございませんでしたので、町としては、御説明して、議員さん方に御理解をいただいたというふうに判断したと思っております。（「そんなことは言っとらせんぞ」と呼ぶ者あり）以上でございます。（「地元に関わってちゅうたやないか」と呼ぶ者あり）

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 地元への説明をしっかりとくださいというふうに申し上げたはずですが。その中で、これは、まだ、口外はできないと。年内はせめて口外はしないようにということで、全員協議会の場で、私はそのように理解をいたしました。地元の皆様、利用団体の皆様に説明を行った後に、口外といいますか、言ってもいいだろうということで、せめて年内はということでしたので、そのつもりでございましたところ、昨年12月28日の新聞に大きく報道がされました。もう決定ということで、出て、皆様驚いて、いろいろな御意見をいただいたところですけども、それから、ここに来るまで半年かかっているわけですよ。6カ月間、6カ月、5カ月じゃった。その中で、まだ区長さんたちへの説明しか終わられてないと。なかなか、これは時間がかかるのかなというふうに思っていますけど、今、行われている説明会の中で、ぜひ、給食センターをふれあいグラウンドに建設をしてくれという意見はございましたでしょうか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 今の御質問にお答えしますと、ぜひ、あそこに建設してくださいという御意見は特にございませんでした。

それから、全協の件で少し補足をさせていただきます。私の記憶があいまいであると思ひまして、全員協議会での記録をいただいて、私は聞き直しをさせていただきました。

まず、町長より建設用地に決定について読み上げた上で御説明をして、私が全協で御提示した資料に沿って、経過を御報告いたしました。その中で、岩尾議員より検討委員会で検討した用地の内容順位づけの詳細について御質問いただいて、お答えいたしました。その後、佐藤隆信議員から、代替地の整備はいつするのかということで、グラウンドが使えなくなる前までには整備いたしたいということでお答えいたしました。その後、安部議員から、代替地の面積はということ

で、これはお配りした資料の中に面積が入っておりましたので、そういうことで、その面積を御説明いたしました。その後、森議員のほうから、この情報はいつオープンにしてよいかという御質問でした。町長のほうから、利用者等関係者に説明を先にしたいということで御説明申し上げ、年内まで外に出さないようにというお願いをさせていただいたところです。その後、岩尾議員から、池の所有、代替地の用地の横に池がございますが、池の所有はどうなっているのかという御質問と、できるならば、池の横に生えております草の部分まで広げて、グラウンドを整備してはどうかということで御提案をいただきました。それにつきましては、経費等を考慮して検討しますとお答えしたところです。その後、森議員のほうから、補助金、それから起債の額はということで、それは財政課長のほうからお答えをさせていただいたところです。最後に議長のほうから、杵築市との共同設置について、どうなっているのかという御質問でしたので、それは過去日出町と杵築市でお話をさせていただいた経緯があって、うまくいかなかったということを御説明して終わったところです。

私が聞いた範囲では、これらの質疑があって、終了したということになっております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 執行部の決定事項ではありましたけども、地元のほうからも、そういった要望等を聞いて、なかなか、これはスムーズにはいかないなということを認識したところであります。経緯はそういうことでしたけども、その中で、今、説明会を行っている中で、地元の、地元だけではないと思いますが、859名の名前を書いていた陳情書が提出をされた、その思いをしっかりと酌んでいただきたいと思ひますし、この地元以外の住民の方たちへの説明会も今後続けていかれるんだと思うんですが、この説明会はいつまで続けられるんでしょうか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 各地区への住民の方への説明会の予定でございますが、6月の後半から7月の前半にかけて予定をしております。その後、一般住民以外にも希望があれば、例えば、PTAであるとか、そういった別の集団のほうから要望等があれば、また説明会を開いて御説明をしたいと思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） ふれあいグラウンドの代替地として、川崎体育館の東側に新たにゲートボール場をつくるということでございますけども、そのふれあいグラウンド、今使っている、ふれあいグラウンドは非常に水はけがよくて、かなり使い勝手がいいといいですか、前日雨

が降っても、翌日にはもうプレイができるという大変すぐれたグラウンドであります。その十分な広さのあるグラウンドでもありますけども、ふれあいグラウンドと同じ仕様で、その川崎体育館東側に建設をした場合、つくった場合の予算はどのぐらいかかると見積もっていらっしゃいますでしょうか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 代替グラウンドの整備にかかる見積もりでございますが、詳細な見積もりについて、3月に業者のほうにお願いをしたところですが、年度がわりの繁忙期であることから、まだ正式な見積書のほうが届いておりませんので、以前、都市建設課のほうで概算的に見積額を出しておりましたので、その金額をお伝えしますと、約3千万円ということになっております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） これがあくまでも概算ですね、はい。

あと、検討委員会から4カ所ほど優先順位をつけた土地の候補地の提示があったかと思いますが、その候補地、報告のあった候補地周辺の土地を購入とした場合、もしかしたら1カ所しかお調べになってないんですか。福祉センターの近所しか調べてないかもしれませんけど、その場合は予算がどのぐらいかかりますか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 用地に係る経費ということですが、議員おっしゃるとおり候補地順位第1位の用地しか積算をしておりません。取得した場合の経費ということで、用地取得に約1億円、それから用地造成費として、約6千万円、合計しますと1億6千万円程度が必要になってくるとおられます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 恐らく、この1億6千万円もかけて土地を買うなんていうことはできないという理由から、福祉センター横のふれあいグラウンドに決定をされたんだと思いますが、幾ら町有地とはいっても、活用されていない町有地であるならば、理解はできます。しかし、皆さんが使ってらっしゃる。どれだけ活用されているか、御存じかとは思いますが、これは概数ですが、昨年の実績で、回数にして、約120回。それから人数にすると、約4,500人が利用をされています。皆さん、健康維持のため、健康増進のため、いろんな目的で使ってらっしゃるグラウンドです。そのグラウンドを潰してまで、そこに建てないといけないという理由がわかりません。そこでなければならぬ理由というのは何なんですか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） ふれあいグラウンドでなければならない理由はということですが、あの場所についての優位性につきましては、給食の配送等の面で交通の利便性が高いことや、上下水道のインフラが整備されていることなど、地元の、藤原地区の日出インター入り口東側一体の地域の優位性につきましては以前から各地区説明会でも御説明させていただいたとおりでございます。それに加えて、先ほど申し上げましたとおり、新たに用地を取得した場合の町の財政負担を考慮した場合に、ふれあいグラウンドと川崎体育館横の両方の町有地を有効に活用すれば、財政負担を軽減できるとの考えから、ふれあいグラウンドの活用をお示しているところでございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 確かに優先順位1番のところはそりゃいいですよ。だけど、財政面で町有地を選定しないといけないということにはつながらないと思いますよ。財政面を全面に出されるというのは非常に酷です。私たちは何も、それを言われると、もう何も言い返しができないことになってしまいますけども、その財源を見つけてくるのも、町長の力量だとは思いますが、町長、この件に関して、総体的なお考えをお話いただけますか。今、こうやって、皆様、傍聴にも来ていただいていますし、各地区で区長会等の会合で説明をしていただいていると思うんですけども、その反応とか、どういう思いで、このまま突っ走っていかれるのか、一度、立ちどまる気はありなのか、そうしたお考えをお話いただきたいと思います。

○議長（森 昭人君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 池田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、財政の問題です。これは、これまで、私がいろんなところで説明する中で、財政の問題は、当初は表に出しておりませんでした。ある説明の場で、この給食センターの話をしたときに、財政はどうなんだという御質問が出まして、やっぱり、そのときに、やっぱり住民の皆さんに財政も説明する中で、この問題を考えていく必要があると判断して、それ以降、財政の問題を皆さんに説明するようにいたしました。一度、立ちどまってというお話ですけども、これから他地域の住民の皆さんにしっかり説明する中で御意見を聞いて、私として、考えるべき点があれば、しっかり考えさせていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 財政面は説明会の途中からお話になられたということですが、藤原の福祉センター、ごめんなさい、保健福祉センターで藤原地区の皆さんが集まって説明をい

ただいたときには、既に経費削減の観点から町有地を選んだというふうに私は理解をしたんですけど、（発言する者あり）そういうふうに理解をしたんですが、私の勘違いでしょうか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 第1候補地からふれあいグラウンドに選んだ経過は、財政の1億6千万円を、何とか済ませる方法を考えたということを申し上げました。そこはもう全く変わりませんが、住民の皆さんに説明するときに、今、基金の問題、それから町債の問題、そういったことを説明するのは途中から始めた、ということでございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 最初から財政が厳しいので町有地を選んだというふうに、もう皆さん、理解はされていると思います、もう、あえて説明をされなくても。何であそこに選んだというふうに私もいろんな方から聞かれて、それはもう財政、経費削減のためですというふうにししかお答えができないという状態です。

優先順位1番のところがいいんであろうと先ほども申し上げましたけども、なにも1番ではなくても、2番目、3番目に候補に挙がった土地を何とか安く購入できる方法を考えていただいて。新しく川崎体育館の横につくるゲートボール場、グラウンドゴルフ場、そういった施設をつくるのに概算で3千万円と、ほかにもまた土地を取得する分と考えたときに、ちょっとそこにまた上乘せすれば、何とか頑張って土地の購入ができるんじゃないのかというのが皆さんの思いです。

厳しいのはわかります。だけど、以前、町長が、豊岡の支所の件を申し上げますと、あそこは取り壊すための予算がついておりました。それを取り消すという議案が出されました。私どもも、それ、賛成をしたので、そのことをとやかしくは申し上げませんが、そのときの町長のお考えは、豊岡支所を活用したいとおっしゃる方たち、町民の方の声に耳を傾けていただいて、そして一度立ちどまって再考したいと決断をされました。そのような説明を、私ども、受けております。町長の公約にも、住民との対話を重視して、子育てしやすく、老後も安心して住める活力あるまちづくりとございました。であれば、その公約どおりの行動であると理解はできますけども、今回の件に関しては、住民との対話どころか、十分な説明がないまま新聞報道がなされるなど、全く豊岡支所のとくと真逆の対応だと思うんですが、この点に関しては、町長、いかがでしょうか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 真逆の対応というお話でございますけども、対話という点では、これからまさに住民の皆さんと対話していこうということでございます。ふれあいグラウンドも給食センターも住民皆さんのものですので、皆さんと一緒に考える、ある意味、いい機会かなと私は思っております。対話はこれからということで御理解をいただきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 十分に859名分の御意見は、じゃあ、どうなるんでしょうか。決着点は、町長、どこに求めているんですか。例えば千人、2千人を上回る、そこに建設してもいいよという意見があれば、そちらに踏み切るのか。いやいや、もうずっと説明して回ったけども、賛成の声が聞かずに反対意見のほうが多いので、やはりそこに建設するのは諦めようというふうになるのか、どこを求めているんですか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 何度も申し上げますけども、これから町内住民の皆さんの声を聞いていこうということでございます。どこを終着点にという決めで行くのではなくて、住民の皆さんの声をしっかり聞いていきたいということでございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 建設、使用開始の一応スケジュールというか、きのうお聞きしましたら、17カ月かかると。2021年度より使用開始をしたいというふうな意向でいらっしゃるようですが、そのためには、いつまでに説明会を終えて、いつから設計等に取りかからないといけないという、やっぱりスパンがあると思うんです。その辺の計画。最終的には、いつまで対話をというふうにお考えですか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 先ほど総務課長のほうから申し上げましたけども、これから住民説明会をして意見を聞いて回ると。いつまでという日を切るのは、ちょっと今のところは、これからの説明会、意見をお聞きする会の進みぐあいによるだろうというふうに思っております。

最初のスケジュールというのは全てが順調に進んだときの計画でございますから、これからこういった形で住民の皆さんの声を聞くというふうになれば、ちょっと今の段階でいつまでという決めは難しいかなと思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） そうすると、給食センターの建設がおくれることにつながりかねませんが、その辺は大丈夫なんですか。2021年度に使用開始ということはこだわらないということですか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 供用開始の時期にこだわると、住民の皆さんとの対話という部分がおろそかになる恐れがあるということも危惧しております。最初のオープンが数カ月おくれることは、

ある程度やむを得ないこともあるのではないかなと思っております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） そうすると、建設場所に反対をしている人たちが、いかにも建設をおくらせているような誤解を招きかねません。ですので、町長、ここはもう本当にしっかり、やっぱりいつまでという計画をきちんと立てていただいて、その中で動いて行って行動していただきたいと思います。

先ほど、1期生の同僚議員から、ふるさと納税の財源確保のお話がありました。そういった努力も積み重ねながらしっかりとやっていただかなければ、この給食センターの件は本当に片づいていかないというか、前に進まないと思います。一生懸命、私たちも、どうにかいい決着というか、できればなど。あそこの土地はだめなのか、ここはだめなのかという、いろんな御要望をいただいていますけども、意見もいただいていますけども、その中で、どうしてそんなにかたくなに町長があそこの土地を諦めないのか、そこが本当に理解に苦しむところなんですけども、そこら辺に何か理由は、述べられることはありますか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 私があの土地を諦めないわけではなくて、今、町があそこに建てようとしたこと、まだ町民皆さんの意見を聞いていない中で私が今行動を起こすことは、やっぱりほかの皆さんにちょっと申しわけないというか。やっぱり、何度も申し上げますけど、どちらも町民皆さんのものですから、皆さんの御意見を聞いてから、考えるべきところがあれば考えなけりゃいけないと。私があそこを諦めないとか、そういう捉え方はちょっと考え方を改めていただきたいんですけど。

それと、これから皆さんの意見をしっかり聞くから数カ月おくれるかもしれないというお話をちょっとしましたけども、それは別に反対があったからではなくて、これを機会に、皆さんで議論するいい機会ですから、それは2カ月かそこら仮におくれたとしても、それは意味のあるおくれ方じゃないかと思うんです。だから、今からしっかり説明して、御意見聞いて回りますので、そういう御理解をお願いしたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 最初に答弁をいただいたときから随分柔和なお顔になられたので、期待をしたいと思いますが、多くの住民の方の御意見をやはり聞いていただくのも、それはもうもちろん大切なことでもあります。だけど、これだけ大きな反対の声がある中で、やはり町長にも柔軟な対応を望むところでございますので、ぜひ再考をお願いしたいと思います。

では、次の質問に移らせていただきます。

食品ロス削減に向けてということで、以前にもこの食品ロス削減についての質問は行いました。その後、ありがたいことに、議会での会食の際には、多分役場の中でも行っていただいているのではないかなと思うんですけど、会の開始後30分と終了前10分には自席に着席し、出された料理をいただく時間を設ける3010運動が定着をしてみいました。これは、食べ残しを減らすことにより、ごみの削減にもつながる大事なことであります。一人一人の心がけでできることですので、ぜひとも広く周知を行っていただきたいと思っております。

例えば、飲食店にポスターを貼ってもらうとか、チラシやコースターを配布するなど、行ってはいかがでしょうか。

○議長（森 昭人君） 生活環境課長、岩尾修一君。

○生活環境課長（岩尾 修一君） お答えいたします。

食品ロスの削減は、食料の有効利用や環境負荷への配慮からも重要になっていると思いますので、3010運動を定着させるため、議員が提案されるチラシやコースターなどの配布も一つの手段であると考えていますが、費用対効果からして、どのような方法で飲食店にお願いするのが効果的なのか、検討してみたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） そういった会席の場だけというのは、一部、そういった席にも行かない人もいらっしゃいますので、全ての人にといいわけにはいかないでしょうけれども、しないよりはしたほうがいいのではないかなというふうに思っております。

会食の3010運動だけではなくて、家庭に向けて、各御家庭に、物を買過ぎないとかあるものから食材を使うとかそういう啓発、そういったものを行う考えはありませんでしょうか。

○議長（森 昭人君） 生活環境課長。

○生活環境課長（岩尾 修一君） 今までの取り組みとしまして、忘年会等の宴会の時期に合わせて職員に対し啓発を行い、取り組みへの理解と協力をお願いしました。

町民に対しては、食品ロスについての意識を高め、家庭での食材を有効に利用し、無駄な食材、食べ残しを減らしてもらえるよう、ホームページにも掲載いたしました。

また、ごみの減量化の一環としても必要な取り組みであると認識しておりますので、今年度は広報紙への掲載や地区班回覧等で住民に周知していきたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 早速ホームページに掲載をしていただいたということですので、

ありがとうございます。

どれだけの意識があるのかというのは、なかなかはかりにくいところなんですけど、これも費用対効果等につながりますが、そんなにたくさんの方ではなくてもいいかとは思いますが、アンケートを行ってみてはいかがかなと思います。家庭でできること、買い過ぎない、作り過ぎない、残っている食材から使うということをホームページ等で掲載をしていただくと、また周知のほうにつながるのかなと思いますが、ホームページに掲載をしているのは、どういった内容で掲載をしているんですか。

○議長（森 昭人君） 生活環境課長。

○生活環境課長（岩尾 修一君） 今申し上げましたが、家庭での食材を有効に利用して、無駄のない食材の利用、食べ残しを減らしてもらおうと、そのことがごみの減量化にもつながりますので、そういった内容を掲載しております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） じゃあ、ちょっと確認をしてみたいと思います。ごみの減量というのは大きな問題で、環境問題等にもつながっていくことですので、ちなみに、子供たちにも伝えるために、ポスターを書いてもらうなど学校に協力をいただいて、そういったこともしていただくといいのかなというふうにも思っております。

あと、今、県社協がフードバンクを開設をいたしております。その余っている食べ物を食べ物に困っている人に届けるというものですけども、日出町の社協が恐らく窓口になっているかと思えます。この間、ちょっとお話を聞きにいったところ、月に1回とかいう形で集めたりはしているということでありました。

日出町では、有志の方により、今度、こども食堂も開設されるようですので、御家庭で余っている、例えば缶詰ですとか未開封の食品を、こども食堂もしくはまたフードバンク等にお届けできる、そういった仕組み、窓口をつくってはいかがでしょう。

○議長（森 昭人君） 福祉対策課長、阿部孝君。

○福祉対策課長（阿部 孝君） 池田議員の御質問にお答えいたします。

議員御承知のとおり、大分県社会福祉協議会では、平成28年度より、まだ食べられるのにさまざまな理由で廃棄されてしまう食品を、食べ物に困っている方や福祉施設などに届けるフードバンク大分事業に取り組んでおります。

県内では、既に個人や賛同企業が大分県社会福祉協議会に食料を寄贈し、大分県社会福祉協議会から各市町村社協を通じまして、生活困窮者やこども食堂などに食料品を提供するシステムが既にでき上がっております。

本町におきましても、日出町社会福祉協議会において、年に2回、お中元、お歳暮のシーズンの後、主に食品のやりとりが行われる時期に合わせ、協力のお願いのチラシを作成し、班回覧を行い、皆様からいただいた物資をフードバンク大分に届けております。

福祉対策課といたしましても、大分県社会福祉協議会、日出町社会福祉協議会と連携いたしまして、今後もこのフードバンク大分事業を町民に広く周知していきたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 年に2回ということですが、もうちょっと回数をふやしていただくと皆様にも周知していただけるのかなというふうに思っておりますので、またよろしくお願いをいたします。

済いません。では、次の質問に移ります。

防災行政無線が聞こえにくいという点で、東日本大震災以来、その後だと思いますが、防災行政無線の整備を重点的に行いまして、町内各所においても設置をされております。

しかし、御存じのとおり、豪雨の場合または場所によって、室内では十分に放送内容が聞こえないということが指摘をされております。最近の住宅も機密性がよくなりまして、防音サッシですとかございますので、なかなか聞こえづらいということをお聞きをいたします。

世帯数の少ない集落、山間部地域などには、無線を立てるよりも、費用対効果の面から、戸別受信機の配布をしていると思っておりますが、現在の配布数はどのぐらいでしょうか。

○議長（森 昭人君） 総務課参事兼危機管理室長、塩内政徳君。

○総務課参事兼危機管理室長（塩内 政徳君） 池田議員の御質問にお答えします。

戸別受信機の配布でございますが、日出町では、平成22年度から防災行政無線の整備工事を進めて、平成29年度までに38基の防災行政無線の子局、無線塔の設置を行いました。平成29年度には、子局設置だけでは情報伝達が困難な地区の希望者に戸別受信機を配布したところ です。

配布数は、目刈区に12台、高平区に24台、今畑区に9台、柏川区に5台、赤松区の清水地区に15台、沼津地区に9台、合わせて74台の戸別受信機を現在配布しております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） これは希望者だけということですが、防災ラジオというのを最近よく耳にするというか、そのほうが安くていいんじゃないかというようなことで、戸別受信機と防災ラジオの違いを教えてください。

○議長（森 昭人君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（塩内 政徳君） 防災ラジオと戸別受信機の違いということですが、防災ラジオは、行政がラジオの放送中に緊急に割り込みを行って放送を行い、それを利用し緊急情報を流した場合に、スイッチを切った状態、待機状態でも強制的に大音量で緊急放送が流れてくるラジオのことになります。

次に、戸別受信機ですが、これは、防災行政無線から送信される電波を専用の受信機で受信し、同じ放送を聞くことができる機器となっております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） この防災ラジオ、ちょっと私、済いません、勉強不足で本当に申し訳ないんですが、防災ラジオというのはFM局で放送される電波を受信するというふうに認識をしているんですが、これは市町村単位でないとできないんですか。言っている意味がわかりますか。

○議長（森 昭人君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（塩内 政徳君） いわゆる防災ラジオと言われますのは、先ほど言った緊急割り込みといいますか、これはFM放送、FMの電波を通じて、現在流れている番組等の間に割り込むという形になりますので、基本的にはラジオの放送局と協定または契約等を結んで利用するようになりますので、通常、緊急時だからといって、放送を流して、それをラジオを買ってきたからそれを聞けるというものではありません。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 佐伯市、中津市、由布市は防災ラジオの配布を行っているんです。各市町村ごとにラジオ局を持っていらっしゃるんです。日出町の場合はラジオ局がないので、もし日出町が防災ラジオを配布したとしても、エフエム大分、ありますね、大分県内の。その分に対応ができるのかどうかというのをお聞きしたかったんですけど、わかりますか。

○議長（森 昭人君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（塩内 政徳君） 今、議員がおっしゃったとおり、例えば大分県であれば、中津市にNOAS FM、あと佐伯市のほうにエフエムさいき、由布市のほうにゆふいんラジオとありますが、コミュニティFMであれば、受信範囲というのがその周辺の市町のみ受信ができますので、その中に割り込むというラジオの放送局との協定というのは結びやすいところがあるんですが、例えば日出町であれば、利用するとすればエフエム大分のほうになりますが、例えば日出町だけの情報を流したときに、エフエム大分の電波が届く全てにその放送が行ってしまうというところもあり、ちょっと防災ラジオのことを検討しているところにお伺いしたら、自

分のところにコミュニティFMがないと協定等を結ぶのは難しいんじゃないかという話を聞いております。

地元で、もし日出町でそういう防災ラジオの利用を進めるのであれば、コミュニティFMの開設ということが必要になってきます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 池田君。

○議員（12番 池田 淳子君） 濟いません。勉強を進めるうちにそういうことがわかってまいりまして、戸別受信機よりも安価であること、また強制的にスイッチが入って緊急の情報が聞けるということから、この防災ラジオが非常に役に立つのではないのかなという思いからこの質問をしたんですけども、FM局の開設ということであれば、ちょっと予算的にもかなり、費用対効果の面からの厳しいのかなというふうには思っておりますが。

先般より、中津の土砂災害もそうですけども、想定を超える災害が起こっている中で、やはり私も防災士の一人として、どんなことができるのかということをもっと勉強しながら活動していきたいと思っております。

これで、私の質問を終わります。

.....

○議長（森 昭人君） 2番、豊岡健太君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 2番、新人の豊岡健太です。3月の選挙で初当選をさせていただき、この場に立てることに対して感謝を申し上げます。報恩感謝の念をもって、精いっぱい頑張っております。初めての一般質問で、ふなれな点が多々あるかとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、通告書に従って質問してまいります。

まず、日出町障がいのある人もない人も健やかで安らかに暮らせるまちづくり条例について伺います。

障がい者差別の解消については、障害者の権利に関する条約が平成18年12月の国連総会で採決され、平成20年5月に発効しています。我が国では、障害者差別解消法の制定など国内法の整備を行い、平成26年1月にこの条約を締結しました。条約は、障がい者の個性を尊重し、障がい者の人権や基本的自由を保障することが必要であるなどを明らかにしています。

しかしながら、社会の実態は、障がいや障がいのある人への理解が深まっていないことから、生活する上での支障や偏見などが残り、障がいを理由とする差別の解消には至っていない状況にあります。

こうした状況の中、平成28年4月1日に障害者差別解消法が施行されました。この法律では、

国や地方公共団体だけではなく、民間事業者においても、正当な理由なしに、障がい者というだけでサービスの提供の拒否や制限といった不当な差別的対応をしてはならないとされています。

ここ日出町においても、町長を初めとしたさまざまな関係者の御尽力の結果、日出町障がいのある人もない人も健やかで安らかに暮らせるまちづくり条例が平成30年4月1日に施行されました。県内では、別府市、大分県に続いて、杵築市とともに第3番目の施行であります。

障がい者差別をなくすためには、この法律や条例を円滑に施行し、実効性を高めることが非常に重要であると考えます。まずは町民一人一人が接する相手の障がい特性などを理解し、思いやりを持って対応することが非常に大切になってくると思いますが、障がい者差別の解消を推進していくためには、広域的な役割を果たす県とも連携しながら、町の積極的な普及啓発活動こそが不可欠であると考えます。

そこでお伺いします。既に条例が施行されて2カ月が経過をしましたが、町民や事業所等への本条例の周知浸透に対しての現在の進捗状況と、今後の具体的な取り組みをお聞かせください。

次の質問は、質問席から行います。

○議長（森 昭人君） 福祉対策課長、阿部孝君。

○福祉対策課長（阿部 孝君） 豊岡議員の質問にお答えいたします。

障がいのある人もない人も健やかで安らかに暮らせるまちづくり条例に関しまして、町民や事業所等への周知の浸透、進捗状況と今後の具体的な取り組みはということですが、日出町のホームページに条例及びその概要を掲載をしております。また、5月号町報への掲載、リーフレットの回覧を行い、周知を図っているところでございます。

今後も、まずは町民の方に自分のこととして考えていただき、理解を深めていただくことが大切であることから、定期的に町報などで周知を図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 今、課長がおっしゃられたように、定期的な啓発活動を今後よろしくお願ひしたいと思ひます。

さらなる周知に引き続き力を入れていただければと期待をしておりますけれども、なかなか浸透という意味では難しいというふう聞いております。課長は御存じかと思ひますけれども、国内初の条例は、平成18年に千葉県で成立しております。千葉県では、条例施行から既に10年以上経過をしておりますが、平成29年3月に行われた千葉県の障害者施策に関する意識調査では、条例があることを知らないと答えた人が、いまだに62.1%いるという結果が出ています。追随する他の自治体でも、大差のない残念な現状です。障がい施策に対しては、思うように周知・理解が進んでいかないのが今の日本の現状ではないかと考えます。

こういった状況にならないよう、日出町においても、まずは普及啓発を行政が積極的に押し進めていただきたいと強く要望いたします。

普及啓発の例を挙げますと、東京都の国立市では、条例施行後に、制定記念イベントとして基調講演やパネルディスカッション、市内にある通所施設等の作品展示や生産品販売を行い、市民への周知を行っています。

名古屋市では、障がいの特性や、どのようなときに困るのか、どんな配慮が必要か、豊富な事例を盛り込んだ「障害のある人を理解し配慮のある接し方をするためのガイドブック」、ちなみにこちらになりますけども、かなり分厚い資料になっています。40ページちょっとぐらいですか。こういったガイドブックをリリースし、市民が障がい者への理解を深める対策を行っております。

また、お隣の別府市でも、各地区でタウンミーティングをとり行い、多くの市民に理解してもらえるよう活動しています。

そこで伺います。町民への理解促進につきましては、条例第3章第1節にも既に明記をされています。改めて、町のお考え、具体的な案がございましたらお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（阿部 孝君） 障がい者に対する、その理解を深めていくためには、先ほども申しましたとおり、周知等徹底していかなければならないと考えておりますが、今考えているのは、まず身近な民生委員さん。民生委員さんの、今度、臨時総会がございます。そのときに、町のリーフレット等を配布して、その内容について皆さんに理解してもらいながら、それを活用していただくということがまず第1点です。

それから、今回、手話サークル「ひじ」というところから、職員の研修をしてほしいということがございました。そういうところに今度町のほうから出向いて、そちらでまたこの条例の内容を詳しく説明しながら、理解を浸透させていくという考えでございます。

あと、事業所等につきましては、先日、リーフレット等を商工会のほうにお願いしてお配りをしたところでございます。あと、日出町の施設といたしましては、中央公民館、また福祉センター、交流ひろばHiCaLi、そちらの3施設のほうにこのリーフレットを配置して、事あるごとに皆さんにわかるように、そちらのほうに配布をして取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） ぜひ、今おっしゃったような具体的な取り組みを引き続き実行していただいて、町民の皆様、そして町内の事業所の方々に知っていただくよう、よろしく願いをいたします。

次に、この条例の制定に当たって、平成29年7月から、複数回にわたって検討会を開催されてきたかと思えます。その中で、差別等の状況についてアンケートを実施されたと思えますが、その結果を踏まえて、どのように活用されているかお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（阿部 孝君） アンケート集計結果を踏まえた活用方法はということですが、本条例を制定するに当たってアンケートを実施いたしました。アンケートでは、「差別や偏見を感じるがありますか」「できるだけ対応してほしい配慮はどのようなものがありますか」などを質問し、さまざまな意見をいただいたところです。

差別は、それと気づかずに行われることが多いことから、お互いの理解を深めることが重要と考えております。今後、障がいのある人の生の声であるアンケート結果をもとに、障がい及び障がいのある人とその家族についての理解を深めるために活用していきたいと考えております。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） アンケートの回答内容を私も拝見をしましたが、日常生活の中で配慮を感じているという意見ももちろん多々ありました。しかし、その数以上に、差別を感じたという意見が多数ございました。全ての声に応えることはできないにしても、障がい者、そして障がい者の御家族が毎日のように直面している課題が、今、課長もおっしゃられたように、生々しく語られていますので、ぜひ、町として、できるところから解消していただきたいというふうに思っております。

続きまして、役場における障がい者の雇用について伺います。

大分県は、日本一を目指す3つの取り組みの一つとして、障がい者雇用率日本一を掲げています。2017年は全国5位となり、前年の3位から順位を下けている状況で、広瀬知事は、日本一奪還を目指すとして30年3月の県議会で強調されています。

あわせて、平成30年4月1日より、障害者雇用促進法の改正により、法定雇用率の算定基礎の対象に新たに精神障がい者を加え、法定雇用率の引き上げが行われました。

日出町においても、障がい者の雇用について、今まで以上に力を入れて取り組んでいかなければならないと感じております。日出町で暮らしている障がい者の方々は、障がいを持ちながら仕事をしていく上で、家から通勤できる点、通勤ストレスの少ない点、何か職場で問題が起きた場合に家族や手助けをしている方がすぐに駆けつけられる点、そして日出町への愛着等から、この日出町に住み、働きたいという思いを強くお持ちです。

条例第3章第2節にも従うべく、町としては日出町の事業所に今以上に働きかけ、さまざまな策を講じて、障がい者の雇用につながる働きかけを行っていかなければならないのはもちろんですが、まずは役場でも障がい者雇用枠という明確なものをしっかりと設けて、町内の事業所はも

ちろんのこと、他の市町村にも見本となるような先進的な取り組みをみずから行っていくべきであると考えますが、見解を伺います。

このことにつきましては、昨年的一般質問でも取り上げられておりますが、条例施行に伴い、再度お考えをお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 総務課長、藤本英示君。

○総務課長（藤本 英示君） 豊岡議員の御質問にお答えいたします。

まず、日出町役場の現状のほうをお伝えしたいと思います。障がい者雇用率は、平成29年度現在で3.11%となっており、法定雇用率である2.3%を上回っているということになっております。

日出町職員の採用試験におきましては、現在のところ、自力による通勤ができ、かつ介助者なしに職務の遂行が可能であること、活字印刷物による出題に対応できるという要件を満たせば、障がい者の方でも受験ができるようになっております。

一般行政職の中に障がい者枠を現在のところは設けておりませんが、昨年から、体力試験を撤廃するといったところで、障がい者の方への門戸をさらに広げる取り組みを行ったところでございます。

職員採用につきましては、現在のところ、障がい者枠というところの設定はございませんが、障がい者の社会参加、雇用促進等の観点から、障がい者枠を設けている自治体もございますので、さらに今後の課題として検討を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 先ほども申し上げたとおり、ことしの4月から、障害者雇用義務の対象に精神障がい者が加わりました。

県では、障がい者就労環境づくり推進事業に取り組んでおります。繰り返しになりますが、大分県は障がい者雇用率日本一を目指しています。現在は全国5位ですが、中身を申し上げますと、身体障がい者の雇用は既に全国1位です。しかし、精神障がい者の雇用は23位、知的障がい者の雇用は25位となっており、県としては、精神障がい者と知的障がい者の雇用に力を入れていくと明言されています。

ちなみに、日出町の障がい者雇用の代表事業所として、ホンダ太陽とホンダR&D太陽があります。先月、新人議員4名で2社を見学させていただきました。ことしの5月現在、2社合わせて、従業員241名のうち、障がい者の方は138名です。障がい者のうち、精神障がいの方はわずか12名のみとなっています。精神障がいの方は、日出町で働きたいという思いを持っている方も多い中、なかなかかなわず、町外に仕事を求めて出ていく現状があります。

そこで伺います。私は、この4月から新たに加わった対象の精神障がい者に対する雇用枠というものをしっかりと設けて雇用していくことこそ、今回の日出町の条例の基本理念に沿っており、町の役割の一つと言えるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（森 昭人君） 総務課長。

○総務課長（藤本 英示君） 日出町役場職員の採用に係る精神障がい者のということでよろしいでしょうか。

行政職の職員として採用する上で、検討する中で、どういった障がい者の方が採用できるかという具体的な検討を現在のところしておりませんので、精神障がい者を含めた障がい者の枠といった設定については、ちょっと研究をさせていただいて考えさせていただきたいと思います。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） これ、私の考えですけれども、身体障がい者枠、それと知的・精神障がい者枠をそれぞれ設けないと、特に知的・精神障がいをお持ちの方は、健常者の方と一緒に通常の一般の試験を受けなければならないというのが現状だと思います。障がいの程度にももちろんよるかとは思いますが、なかなか一般の人と競争して通るとは考えにくいというふうにも考えています。これは、昨年6月の議会でも先輩の熊谷議員がおっしゃっていたかと思いますが、知的及び精神障がい者に対して、現状は門戸を閉ざしているのと何ら変わらないと思いますが、町長の見解をぜひお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 豊岡健太議員の御質問にお答えをいたします。

知的あるいは精神障がい者の採用枠ということでございます。引き合いにホンダ太陽とホンダR&D太陽を出しておられましたけれども、私もあの事業所には実は見学に行きました。ああいった事業所は、製造業ということで就労そのものが標準化しやすいというか、障がいに応じてああいう形態にならざるを得ないのかもしれないかもしれませんが、標準化する中で知的障がいの方が働いておられるというのを私も目にしました。

それを、転じて役場の仕事で見ますと、もちろん役場は製造業じゃありませんから、そういったなかなか単純な部分の仕事が少ない。法律や条例が難しくなる、あるいはいろんな制度が難しくなる中で、やっぱり一定程度の活字印刷物の内容が理解できるとか、そういったところがないと、町民サービスというところの部分も提供は厳しいかなという思いがしております。

そうは言っても、どういった形の採用があり得るのかということは、引き続き検討していく必要があるというふうに思っている次第です。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 健常者とイコールの仕事は確かにできないかもしれませんが、身体、そして知的・精神、それぞれの枠を設けて、できる仕事を行ってもらい、まずは役場が率先して障がい者雇用の見本となるべきだと私は考えております。もちろん、環境整備等あるかとは思いますが、一気に5人も6人もとは言いません。少しずつでも結構ですので、ぜひ、町長には実現する方向で前向きに御検討いただきたいというふうに思います。

次に、グループホームに関して伺います。

事業所における精神障がい者雇用については、さまざまな障がい特性に寄り添った多様な支援策が求められるのと同時に、住みなれた地域で安心して生活を継続できる支援もあわせて重要であると考えます。精神障がい者のグループホーム等の住まいの場を、行政が支援し確保することも今後検討していくべきではないかと考えますが、見解を伺います。

○議長（森 昭人君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（阿部 孝君） 精神障がい者の住まいの場、グループホームの提供や支援について、町の見解はどういうことですかということでございます。

障がい者の高齢化や親亡き後を見据え、地域で障がい者やその家族が安心して生活するため、生活の場であるグループホームの整備につきましては、国の指針に基づき、ことし3月に策定いたしました第5期日出町障害福祉計画において、今後3年間のグループホームの整備見込みを算出しているところです。

グループホームは、知的障がい者や精神障がい者の利用が多い施設でもあります。町といたしましては、住みなれた地域で暮らし続けることができるように、計画に沿った整備を図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） グループホームの整備に関しては、平成30年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な方向性として、地域で障がい者やその御家族が安心して生活するため、整備が進むことが予想されています。少しずつ定員数も増加していくことになるでしょうが、一番大切なのは、障がい者本人やその御家族のニーズに合っているかどうかだというふうに思っております。単純に定員数をふやせばいいというわけではなく、ニーズを把握した上でのサービスを充実させることが大事だと私は考えております。

そういった意味でも、障がい者やその御家族が受けられるサービス等の情報は、グループホームのことに限らず、行政のほうから積極的に発信をしていただいて、各家庭のニーズに合ったサービスの提供をお願いしたいと思います。

積極的発信というのは、事前の登録等必要かと思いますが、障がい者の家庭宛にファクス

やメールを使って、待ちというか受け身のサービスの提供ではなく、行政側から能動的、積極的なサービスの提供を強く望みますが、そういったファクスやメールでお知らせすることは可能でしょうか。

○議長（森 昭人君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（阿部 孝君） ファクスやメールで発信をしてはどうかということでございます。

この件につきましては、また福祉対策課のほうで、どういうことができるのかどうか、検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 検討していただけるということで、ありがとうございます。町民ファーストはもちろんのことですけれども、特に弱者の味方である役場であってほしいと強く願っております。福祉の町日出町ですから、障がい者に対する町の今後の取り組みに大いに期待をしています。

それでは、次の質問に移ります。

町内企業に対する取り組みについて伺います。川崎工業団地に関しては、先輩議員や同僚議員からも質問がありましたので、そこ以外の地域のことについて伺います。

平成26年1月20日に施行された産業競争力強化法に基づき、日出町では、地域における創業者を支援することを目的に創業支援事業計画を策定し、平成27年2月に国の認定を受けています。

この計画に基づいて、創業者向け支援施策を実施されていると思いますが、創業者向けや川崎工業団地以外の地域における企業の誘致に関しての現状と目標についてお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長、藤原寛君。

○商工観光課長（藤原 寛君） それでは、豊岡議員の御質問にお答えします。

川崎工業団地以外の企業誘致の現状でございますけれども、町内におきまして、そういう町有地や町有施設が川崎工業団地以外ございませんので、民間の空き地や空き工場、空き倉庫等を中心にして、まず所有者のほうから事前の了承をいただき、希望する企業があれば所有者のほうに御紹介をして、企業誘致という形をとらせていただいております。

それと、目標になりますけれども、先ほどの答弁と繰り返しになりますけれども、第5次総合計画の中で、平成32年度までの中間目標として6社、それから平成37年度までで12社を最終目標としているところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 今の数字に対してですけども、創業支援等されているかと思うんですけども、企業誘致じゃなくて、個人もお店を開いたりとかされているかと思うんですけども、そういった数字も入っていらっしゃるんですか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） これは、あくまで私がお答えさせてもらったのは、企業に特化したものでございます。創業の支援等には、数字は入っておりません。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 日出町に限らず、他の自治体も助成金を出したり、少なからずといますか、積極的に企業誘致を行っていると思うんですけども、日出町でそういった事業所を開くというメリットとか優位な点をどういうふうに感じられているか、もしわかれば教えてください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） これにつきましては、当然、企業誘致と同等として捉えているところでございます。若い人たちが創業したいということであれば、当然、行政サイドだけではできませんので、商工会等と連携をしながら、指導また助言をして、できるだけ多くの創業をしていただくために、今、やっているところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 町内の方が町内で空き家とか倉庫等を利用して創業されるというのは、職場が近いとかそういったことを挙げられると思うんですけども、町外から日出町内を選んでくれたといいますか、何にメリットを感じて日出町にお店を開いてくれたとか企業が来てくれたとか、こういったところを感じてくれているのかどうか。もし、課長、おわかりになれば教えてください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 1つは、日出町が交通の利便性また環境のよさ、これは定住等になりますけども、そういったところから、日出にまず住みたい。当然、生活もございますので、こういう起業をしたいということで来ている方がいるというふうに認識しています。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） ありがとうございます。

続きまして、既存の町内事業者に対する支援策についてお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 現行の町内事業者への支援策としましては、まず雇用拡大のための補助金制度、それから増設に伴う助成、それから新規に創業される方への支援、それと中心商店街の空き店舗を活用し事業を始められる方への事業の補助金制度が現行の制度となります。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） そういった案件といたしますか、希望者があった場合、役場に来た場合、商工会のほうに紹介をされているんですか。それとも、役場で対応されているんですか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 当然、商工観光課のほうにお見えになった場合は、まず補助制度、補助条件の説明をしながら、案件については商工会の指導も必要となりますので、一緒に御案内をしながら、協議といたしますか、話をさせていただいているところです。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 今出た、商工会との連携についてお聞きします。ここで言う連携というのは、日出町と商工会が情報交換をしながら、協力して町内の中小企業及び小規模事業者を支援するということを指しております。

中小企業庁が委託した業者が2013年に行った調査によりますと、全ての都道府県が商工会を含む中小企業支援機関と多くの分野で連携している、または一部の分野で連携していると答えており、うまく連携がとれているという結果が出ています。

しかし、一方、市区町村になりますと、連携しているとの回答は、48%ぐらいだと思うんですけども、5割未満であり、都道府県と比べて連携がうまくいっていないことがわかります。

「連携がうまくとれていない」や「どちらとも言えない」と答えた市区町村が、連携を推進する際の課題として挙げていた上位の回答が、「連携するためのノウハウが不足している」「連携するための財源が不足している」というものでした。

そこでお聞きします。日出町の場合は、町と日出町商工会はうまく連携がとれていると判断されているのか、それともそうではないのか、お聞かせください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） まず、商工会との連携についてでございますけども、議員御承知のとおり、昨年度から、商工会主催でございます行政懇談会において、課題を共有しながら、また課題解決に向けた議論をさせていただいております。また、中小企業さん等が目的に応じた補助金を活用できるのかどうか、これも商工会が実施している経営指導等で連携をしているとこ

ろでございます。

また、これは連携とはちょっと離れますけども、商工会の地域振興において、例えば城下かれい祭り等のイベントになりますけども、連携を図っているところでございます。

最終的に連携ができていないか否かという御質問でございますけども、これは連携していかなければいけないというふうに思っておりますので、積極的に情報の交換とかノウハウ、いろんな勉強も双方やっていかなければいけないと思っておりますので、その辺でこれからも連携を密にしていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） ありがとうございます。今おっしゃったように、近年は行政懇談会等の実施等、商工会と対話を通じて情報交換をされているとお聞きしております。地元事業者といってもさまざまな業種があり、多種多様な要望や課題があるかと思いますが、中小企業、小規模事業者の声をぜひ今後とも真摯に受けとめていただいて、さらなる連携を進めていただきたいというふうに思います。

続きまして、日出町中小企業振興基本条例についてお聞きします。

平成30年3月に、町長を初めとした各関係者の御尽力で、日出町中小企業振興基本条例が公布されました。本条例制定後の現在の状況と今後の取り組みについてお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 先ほど議員がおっしゃったとおり、本年第1回の定例会におきまして御承認をいただいたところでございます。

まず、中小企業振興の施策につきましては、これから国の事業、県の事業等、さまざまな事業がございます。例えば、今、国が実施しております、ものづくり補助金という事業がございますけども、これにつきましても、希望する中小企業の条件整備等もございますけども、商工会との連携は必須となっております。

それから、企業誘致とは別に、今既存の事業所さんには、年間20社ほど訪問を行っております。その中で、新しく補助金制度があればそういう説明、それから既存の補助制度の説明、もしくは例えば事業所が事業拡大また経営基盤の安定と強化を図りたいという御質問、また資金調達とか人材確保等の多くの質問等がございますので、そういう中で、今後、基本条例をもとにして可能な事業を、これは各事業書さんが選択をするわけでございますけども、それに伴いまして、行政と商工会とでできるだけ多くの事業所のほうに積極的に指導といいますか、協力してやっていきたいと思っておりますのでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 今、資金調達のお話も少し出たかと思うんですけども、企業が金融機関からお金を借りた場合に利子の一部を補給するような利子補給制度というものがあるかと思うんですけども、その導入については何か検討等されていますでしょうか。

○議長（森 昭人君） 商工観光課長。

○商工観光課長（藤原 寛君） 利子補給につきましては、議員御承知だと思いますけども、先進地、大分県内にも利子補給をするという自治体もございますので、それは金融機関と行政の話の中で、また財源等もございますので、それは研究をしていきたいと考えています。

以上です。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） もちろん財源等の話になろうかと思しますので、日出町の地域振興にとっては、今言ったような利子補給制度や条例の第8条にも明記されていますとおり、金融環境の改善、資金循環が円滑になることが大切ですし、それが日出町の地域経済そのものの体力強化につながるものと考えます。

条例をつくって終わりとにならないように、商工会とも密に連携をとりながら、町内の中小企業、小規模事業所に目を向けていただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問に移ります。

「日出の幸」ブランド化推進事業についてお聞きします。

「日出の幸」ブランド化ステップアップ事業として、地方創生交付金を活用されたかと思えますけども、活用された結果と今後の取り組みについてお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長、今宮明君。

○農林水産課長（今宮 明君） 豊岡議員の御質問にお答えをいたします。

地方創生交付金を活用した事業の結果と今後についてという御質問でございますけども、事業につきましては、「日出の幸」ブランド化推進事業といたしまして、平成27年度、28年度につきましては交付金を活用して事業を行ってまいりました。29年度につきましては、同事業で町単独事業として取り組みを進めてきたところでございます。

具体的な事業内容といたしましては、マコがれいの大型種苗の育成・放流、漁協の実施をいたしますカキ養殖の種苗・資材費などの支援、ナマコの畜養環境の整備支援を行ってまいりました。

マコがれいにつきましては、これまで中間育成で5センチ程度まで成長させた稚魚を7月に放流をいたしてございましたけども、この事業を活用いたしまして、7月に放流せずに、長期育成ということで12月まで育てまして、12センチ程度まで成長させて放流を実施をいたしてございます。放流後の稚魚の生存率を高め、漁獲量の増加を目指しておりますけども、水揚げはふえ

ているという現場の声は聞くでございますけども、統計上の数字的にはまだ把握はできていないという状況でございます。

カキにつきましては、昨年は不調であったものの、平成27年度に導入いたしました殻落とし機などの設備の整備効果もございまして、大幅に漁獲量を伸ばすことができでございます。今後とも漁獲量の増加と品質向上を目指しますとともに、販売体制についても確立してまいりたいというように考えてございます。

ナマコにつきましては、昨日も御質問がございましたけども、昨年度の調査が不調に終わりました、6月の13日に実施予定の調査の結果を見ながら、関係機関と協議しながら今後の方向性を決定してまいりたいというふうに考えてございます。

今後の取り組みでございますけども、引き続きカレイの長期育成の継続と、ハモ、カキ、ナマコなどの振興を図りながら、ブランド化に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） ありがとうございます。平成28年度までは、地方創生加速化交付金を活用して、今言われたような取り組みをされてきたとのことでしたけども、29年度、30年度を含め、以降は交付金を当てにせず、全て一般財源で賄っていくというふうなお考えでしょうか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 先ほど申しましたように、27年、28年は交付金事業でございます。29年度については単費事業でございますけども、交付金事業の中で、同一の事業については取り組みができないというところと、27年、28年については100%、10分の10の交付金だったんですけども、29年度については10分の5になったというところで、単独事業というところで取り組みを進めてまいっております。

30年度については単独で走っておりますけども、新たな活用できる交付金があれば、積極的に活用しながら事業を進めてまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） 先ほどおっしゃったマコがれいに関してですけども、日出町独自の取り組みとして、15センチを目標にマコがれいの長期育成に取り組んでいると思っておりますけども、当初の見込みに対しての成果とか、わかれば教えてください。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 成果については、先ほど申し上げましたように、数字が上がってきていないので何とも言いがたいところではございますけども、大神漁港、漁協の市場に上がる状況を見ると、29年度についても順調にふえていると、漁獲量が上がっているということで聞いてございます。

数量的には、3トン程度だったものが徐々にふえて、4トンに近い3トンになっているということも聞いていますので、若干上がっているかなということでございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） なかなか数字の把握が難しいようですけども、水産部門においては、町が言っているように、城下かれいはある程度ブランド化できていると言っても過言ではないと思いますので、町が取り組んでいる大型種苗の放流が今後の漁獲量に反映されること期待をしておりますし、カレイ以外についても、漁協ともさらなる連携をとっていただきたいというふうに思っております。

続きまして、これは「日出の幸」ブランドではないんですけども、日出産カボチャのブランド化推進事業について伺います。

日出町は、県内最大のカボチャの栽培面積、生産量を誇っており、新たなブランドとして取り組まれています。そのカボチャのブランド化のスケジュールについてお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） カボチャブランド化推進事業について、ブランド化のスケジュールはという御質問でございますけども、本事業につきましては、先ほど議員もおっしゃられましたけども、日出町の特産品でございますカボチャの品種選定、栽培方法、出荷体制を見直しをしまして、高品質、高糖度の特別カボチャを栽培し、産地としてのブランドを確立する目的での事業でございます。

取り組み計画につきましては、事業計画をおおむね5年間といたしまして、最初の2年間は試験栽培で品質及び栽培方法などの検証、その後の3年間で、JAの部会を中心にしまして面積拡大を図っていこうというふうに考えてございます。

本年度は、2年目の試験栽培で、品種はそのまま、わずかな面積ではございますけども、作付圃場を、畑だけではなく、水田、ハウス等での作付も試していこうというふうに考えてございます。

栽培方法につきましても、昨年の1株1果を基本としながら、他のつくり方についても検証して、品質比較をしながら、一番有利な栽培方法を考えていきたいというふうに考えてございます。

また、昨年度実施をいたしました食味検査、日出総合高校との連携、市場へのPRなどを引き

続き計画をしてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） ブランド化の定義といいますか、何をもちて日出産のカボチャがブランド化できたというふうに判断されるのかなというのをもしわかればお聞きしたいんですけども、例えばサツマイモのブランドの甘太くんというのが有名かと思うんですけども、こういった登録商標等は計画しているのでしょうか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 現段階で、カボチャのブランドについて、登録商標までの検討はしてございません。何をもちてブランド化とするかというところでございますけども、我々が目指しているのは、生産物の価格の底上げ、要は生産者の所得の向上でございます。ですから、ブランドという付加価値をつけて、少しでも高く販売できればというように考えてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） ありがとうございます。

では、その日出産カボチャの具体的なPR方法や販路はどのように想定しているのか、お聞かせください。

また、あわせて、農林水産課だけでは販売促進活動や販路拡大には限界があるのではないかと思いますけども、他の課との連携についてはどうお考えでしょうか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 具体的なPR方法や販路はという御質問でございます。

カボチャのブランド化につきましては、事業で試験栽培していますブランドカボチャをきっかけに、町内全体のカボチャの価格そのものを引き上げていこうということで考えてございます。ですから、全体の品質の向上、価格の底上げについて今後も検討しながら、PR方法、販売戦略について検討してまいるということでございます。

30年度につきましては、昨年の反省を踏まえながら、市場出荷して、市場の動向、これを調査をいたしますとともに、町内県内の飲食店や商業施設、宿泊施設などへの提供、販売、そして昨年から日出総合高校と連携をしながらブランド化に向けて取り組みを進めてまいっていますが、その連携による新たな加工品の開発、ネーミングやパッケージデザインなど決定していく予定としてございます。

もう一つの質問でございますが、他の課との連携はという御質問でございます。

具体的に、他の課と連携して今現在で決定している事項はございません。しかしながら、今考

えてございますのは、近隣の別府市、杵築市と連携した中で、商工観光課と連携しながら、日出産ブランドカボチャとしてアピールしていこうというふうに考えてございます。また、政策推進課と連携をして、今議会で質問もありましたけども、ふるさと納税の返礼品として、ブランド化のアピールも検討してございます。

ブランド化を図っていくためには、固定観念にとらわれず、あらゆる方策を検討してアピールしていく必要があるというふうに考えてございます。到底当課だけでは不可能でございますので、関係課、関係機関などと連携しながら進めてまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 豊岡君。

○議員（2番 豊岡 健太君） ありがとうございます。

今回はカボチャについてお聞きをしましたが、カボチャに限らず、日出町の農林水産関連の特産品を、県内はもちろんですけども、全国に知っていただいて、先ほど課長もおっしゃられていましたように、生産者の収入や、あと町が少しでも潤うように、さまざまな各種団体と連携をしながら、ぜひアピールをしていっていただきたいというふうに思います。

以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

.....

○議長（森 昭人君） お諮りします。ここで10分間休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 昭人君） 異議なしと認めます。したがって10分間休憩します。

午後3時20分休憩

.....

午後3時30分再開

○議長（森 昭人君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

13番、工藤健次君。

○議員（13番 工藤 健次君） 13番、工藤健次です。最後の質問者になりました。質問項目が多いので、答弁は簡潔にしていきたい。

町長が就任して2年が経過をしようとしています。そこで、2年間の公約の進捗状況などについてお聞きをします。討議資料に掲げてあった公約です。昨日からの質問に出ていることについては外していくことにしていますが、中には質問するところもあるので、明確な回答をしていただきたい。

はじめに、町長の一番思い入れのある給付型奨学金の創設ですが、就任してすぐに創設し、こ
としは2年目に入っています。この2年間の現状がどのようになっているか、お聞かせください。

○議長（森 昭人君） 教育総務課長、帯刀志朗君。

○教育委員会教育総務課長（帯刀 志朗君） 工藤議員の御質問にお答えいたします。

奨学金の創設につきましては、平成29年第1回議会定例会におきまして、日出町奨学金支給
条例の制定について議決をいただいたところでございます。そして、平成29年4月から、新た
に高等学校等に就学する生徒の保護者に対して、奨学金5万円を給付しているところでございま
す。

平成29年度は、30人の生徒の保護者に給付をしております。平成30年度は、13人の生
徒の保護者に給付をしております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 29年が30人、ことしが13人、もう半分以下になっている
んですけども、この分析はどういうふうに教育委員会として、していますか。

○議長（森 昭人君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（帯刀 志朗君） 分析は非常に難しいところでございますが、認定基
準が類似しております要保護、準要保護世帯、こちらの状況を見ますと、やはり28年度、
29年度、減少傾向にございます。認定生徒の世帯の課税状況を見たところも非課税世帯が減少
していることから、家庭の収入状況が幾らか好転しているのかと推測いたしております。

もしくは、もう一つ考えられることは、中学3年生の生徒の家庭全てに周知のチラシを配布し
ておりますが、保護者の方で見落としされて、この制度を周知できていないというようなことも
考えられると思います。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、町長、教育委員会から今分析とかそうした報告を受
けて、町長の一番思い入れのあるこの政策なんですけど、何か指示をしたとか、そういう経過が
ありますか。

○議長（森 昭人君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 工藤健次議員の御質問にお答えをいたします。

就任して1年9カ月が過ぎました。この間、私なりに全力で公約の実現に取り組んできたところ
でございます。この公約について、職員と一緒に知恵を出しながら実現に取り組んでまいりま
した。

厳しい財政状況の中で、政策効果を、そして緊急性、さらには財政の3者を考えながら判断をいたしまして、議会の御承認をいただいて、順次実現してきたところでございます。まだ道半ばのものなども多いところでございますけども、これからも町民の皆さんにお約束した公約の実現に取り組んでまいりたいと、そして、住むなら日出町と言われる町にしていきたいと思っております。

そういったことで、給付型奨学金と子ども医療費の負担の軽減の拡大について、優先して取り組んできたところでございます。28年度、認定者数は30名ということでございました。申請者数67名という状況でございましたけども、このときに、中学3年生の御家庭に細かく周知するように、該当世帯が漏れなく申請するよにということで、しっかり周知するように職員に頼んできたところでございます。これは29年度予算ですから、30年度入学の高校生からということで最初は制度設計をしておりましたけども、現場の先生方が、もう29年度に入学する生徒から取り組みたいということで積極的に取り組んでいただいたことから、教育総務課長が心配するような、周知が十分行き届いていないということは私はなかったのではないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 町長と教育委員会の分析のあれが違うんですけども。

そしたら、教育委員会は今後この制度をどのようにもう一回見直して運用していくか、教育委員会としてのお考えを示していただきたい。

○議長（森 昭人君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（帯刀 志朗君） 周知方法は、中学3年生の全世帯に奨学金制度の周知のチラシを前回同様配布したいと考えております。また、今回におきましては、広報ひじ、それから日出町のホームページにも掲載しながら、十分な周知を図っていききたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） やっぱり中学校から高校に上がるときに、生活、親の関係で大変苦労している生徒さんも多分いると思うんで。せっかくいい制度をつくって、たった13人で、年度によって若干違うと思うんですけど、65万円ぐらいしか使っていないんですけども。

ぜひ、周知を徹底して、せっかくつくった制度、これもう、すぐやめるわけでもないと思いますので、5万円がいいとか、そういうことはいろいろあるかもわからないんですけど、しっかりこれは分析した結果を来年受ける方に反映するように取り組んでいきたいと思います。

それでは、次に、2番目の学校教室のエアコン設置、これも順調に推移していると思うんです

けど、現状を説明していただきたい。

○議長（森 昭人君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（帯刀 志朗君） 学校教室のエアコン設置についてでございます。

当初は大きな事業費にならないように留意しながら、学校単位ではなく、教室単位で優先度の高いところからエアコンを設置することとしたことから、平成28年度に豊岡小学校と大神小学校の一部の教室にエアコンを設置いたしました。平成29年度は、日出中学校と大神中学校に設置いたしました。平成30年度は、日出小学校、藤原小学校、川崎小学校の3校に設置いたします。平成31年度には、豊岡小学校と大神小学校の未設置の教室にエアコンを設置する計画にしております。

以上、平成31年度末には、全ての学校で快適な環境のもと授業を受けられることとなります。以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 学校のエアコン設置については順調に推移しているということなんですけども、その前に東日本大震災があって、耐震化が急がれました。その後、学校のエアコンになり、次は給食センター、先ほどから出ているんですけど。

給食センターについても、本当は震災が起きる前にはもう本当にずっと話を詰めてきたような状況があって、町長、先ほどからいろいろこの給食センターの件は出ているんですけど、ずっとおくられているんです、もう何年も。東日本大震災の前から検討して、今にもかかるような状況になっていたんですけども、震災の関係で耐震化が入り、それからまた温暖化とかそういう影響でこのエアコンが入り、そして給食センターの優先順位が下がってしまっ。

そういう中で、あと、まだ3年先もちょっと今の状況ではあやふやな状況になっておりますので、どうか、財源とかいろんなそういう問題もありますけども、ぜひ町長、早く決断をしていただいて、決めて、一日も早い給食センターの設置ができるようにしていただきたいと思います。

次は、3番目の義務教育修了までの医療費の拡大ということについてですけど、これの現状について、ぜひ御説明をいただきたい。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長、佐藤久美子君。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） 義務教育修了までの医療費無料化の拡大についてお答えさせていただきます。

子ども医療費助成事業の対象は、平成28年度までは、小中学生については入院のみ無料となっておりますが、平成29年度から、小中学生の通院に係る医療費は、1医療機関ごと月4回まで500円の負担はありますが、その他の保険診療医療費及び調剤費等を無料化いたしました。この拡充により、対象児童が約2,500人の増加となりました。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 今、2,500人と言ったんですけど、金額的には幾らぐらい
になっていますか。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） 平成28年度と29年度、比べまして、2,234万円程度
ふえております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） この部分については、先日、豊後高田市が完全無料化を発表し
たんですけども。

今後の計画、町長、ずっとこのままで行くか。それとも、さらに拡大して、町長の任期が終わ
る4年後までにはしていくか。どちらか、御答弁をいただきたい。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 子ども医療費の負担の軽減の拡大ですけども、29年度から取り組み始
めたばかりでございます。1回500円の負担がという声は特に上がっておりませんので、1回
500円の負担がそんなに大きいとも思えませんので、しばらくは推移を見守っていきたくと思
っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、町長の任期までは、今の現状で行くということによ
ろしいですか。

それでは、次に4番目、これも討議資料に掲げていたんですけども、肥料補助による農業支援
ということで掲げていました。この現状についてお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長、今宮明君。

○農林水産課長（今宮 明君） 肥料補助による農業支援ということで、平成29年度より、生
産者の生産経費の削減と町内循環型農業を目指しまして、肥料補助を実施をいたしました。

実績といたしまして、29年度は町内の野菜や水稻の生産農家の方16名が申請をされてござ
います。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） では、今年度、30年度は、まだ申請の段階には来ていないん

ですか。16名ということは、金額的にはもう知れていますね。どのぐらいの金額ですか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 金額については、ちょっと正確な数字を持ち合わせてございませんけども、予算額100万円に対しまして70万円弱です。60万円だったと思います。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） これも先ほどの奨学金と同じと思うんですけども、町長、いい政策と思うんですけども、なかなか周知とかそういったところが徹底してなくて、多分、今、半分ちょっと超えたぐらいのこういう状況になっていますけども、町長、この点、どういうふうにお考えですか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） この肥料補助、先に需要があって100万円と決めたわけじゃなくて、その範囲内で御希望には応えてきたわけですから、政策効果はあったというふうに思っております。

それから、最初の奨学金ですけども、29年度、認定者が少ないじゃないかというお話なんですけど、これは最初に教育総務課長が申しあげましたように、家庭の収入状況、これ、もう非課税世帯にということになっていますから、皆さん方が非課税になる方が少なくなったということはむしろ喜ばなくてはいけないと思うんです。だから、それは該当者はしっかり申請していただきたいし、それが減ったのは、政策効果が云々というよりも、私は一方では喜ぶべきことだろうというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 非課税世帯が減っているのは間違いないですか。担当課、どっかわかるんですか。それは個人情報とかでいろいろあって、なかなか教育委員会も多分難しいと思うんですけど、把握するのは。しかし、多分13名ぐらいじゃないと思うんですよ、やはり、困っている人は。だから、多分、教育委員会の分析は間違いないと私は思っております。

それでは、そこにいろいろ農漁業の担い手不足の関係とか、それから農業で生活できる環境の構築とか、こういう現状の中で、資材補助による今度は漁業支援ということで掲げていたんですけど、この分についてはどういうふうに現状はなっていますか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 漁業での資材補助につきましては、先ほど答弁をさせていただきましたけども、カキ養殖について生産資材の補助を行っているというところで、先ほどの「日出の幸」ブランド化事業、この中で実施をいたしてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 今のところ、カキだけですか。カキだけちゅうことですね。

これも、なかなか漁業者、農業も一緒なんですけど、担い手不足とか、それから農業、漁業で生活できる環境とか、そういうことにはほど遠いんで、ぜひこういうところにも力を入れて、農業や漁業にかかわる人が生活できるような方向にぜひ行政としてもしっかりと支援をしていただきたいと思います。

それから次の、商品の産地化や新規販路開拓を行う事業者の支援ということで、これも掲げていたんですけど、この現状とかについて、どうなっていますか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 商品の産地化や新規販路開拓の事業者支援ということでございます。

事業者支援につきましては、カボチャやカレイ、ハモなどのブランド化はもとより、その他の生産物につきましても、産地化やブランド化を目指し、新たな販路の開拓や拡大に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

現状、具体的に何について幾ら支援をしていると、こういう実態はございません。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 町長、農業、漁業支援について、公約に掲げていたんですけども、農業、漁業、この支援について、町長のあと残りもう2年になったんですけど、後半戦はもっとどういう分野について特に力を入れていきますか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 2年といっても、まだ実質はまだ1年しかできておりませんので、引き続きこういったことに地道に取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、今、この農業、漁業、農林水産課長、課題についてどういうふうに考えていますか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 農林水産業の抱える課題でございますけども、午前中、安部議員の給食センターの中でも出ましたけども、要は1つについては遊休農地の増大、ここが大きいかというふうに考えてございます。

それで、あわせまして、高齢化や担い手の不足、これに尽きるんじゃないかなろうかというふうに思います。その原因といたしましては、指摘されたとおり、農業所得の減というところなんだろうというように考えてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 安部議員の質問の中にもあったんですけど、給食センターの材料、地産地消で日出から使うということだったんで、それも20%行っていないんですよ。そういう状況の中で、例えば給食センターのほうから、どういう材料を年間どのぐらい使うとかいうことを農林水産課のほうもちゃんと把握して、それをまた農業者と連携して、そこでつくって契約栽培的にするとか、そういうあれをぜひやっていただきたいと思います。この点、どうですか。

○議長（森 昭人君） 農林水産課長。

○農林水産課長（今宮 明君） 議員御指摘のとおり、給食センターの質問が出ましたけども、非常に大きな食材費を使っているというところで、これ、常々、安部議員からも言われてございます。

実は、昨年度になりますけども、JAのほうと話をしまして、具体的にどういった作物を入れることが可能か、一度給食センターと協議をしております。納入業者がJAだけではないので、若干難しい部分もありますけども、日出町の生産者というところを考えれば、十分販路として可能だというふうに思いますんで、協議を続けて何とかやっていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） では、課長から、取り組みをしっかりとすることだったんで、ぜひ少しでも実現するように、段階的でもいいんですけども、取り組んでいただきたいと思います。

次は、5番目の新規事業の取り組みや雇用の拡大ということで、企業誘致の話がたくさん出てきたんですけども、ここはそのまま飛ばしていきたいと思います。

それでは、次に、6番目の国民文化祭に向けた町内芸術・文化活動への支援ということで掲げておりました。これの現状について、担当課、お聞かせください。

○議長（森 昭人君） 生涯学習課長、安田加津浩君。

○生涯学習課長（安田加津浩君） 国民文化祭、まずはそちらのほうの説明をさせていただきたいと思います。

先ほどの安部議員の質問、答弁の中でありました国民文化祭でございます。本年10月6日から11月25日の間、第33回の国民文化祭、あわせて第18回の全国障害者芸術・文化祭が大分県で開催されます。日出町においても、実行委員会を組織して、期間中のイベントについて現在準備を進めているところでございます。

中身の若干説明をさせていただきたいと思うんですが、メインとなる行事として、交流広場HiCaLiで障がい者のアート作品展を開催。中央公民館では、こども文化の祭典としまして、障がいのある人もない人も一緒になって披露するこどもミュージカルや町内の中学生、高校生の吹奏楽の演奏会を開く予定にしております。また、暘谷駅前では、ハローキティとの触れ合いや子供テレビ番組などに出演中のケロポンズのコンサートを開く予定にしております。

町内の文化・芸術の団体が全部そちらのほうにかかわるといことはございませんで、現在、期間中において、ひじ産業文化まつり並びに文化協会の加盟団体であります団体による滝廉太郎の記念音楽祭や世界のヒョウタン展など、全部で6の事業を開催する計画にしております。毎年開催しております音楽祭では、東京オペラシンガーズをお招きするなどしてスケールアップ、またヒョウタン展では、障がいを持たれている方もたくさんつくる予定にしておりますヒョウタンの作品展示を行う予定にしております。

なお、これらの事業については、県並びに町より支援を行うようにしております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） では、その国民文化祭があるので、今までの産業文化祭は、これはもうことしはしないということなんですか。それとは全然別個ですか。

○議長（森 昭人君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（安田加津浩君） ひじ産業文化まつりにつきましては、例年どおり開催する予定にしております。10月から11月までの期間で開催されますので、その期間内で開催をするという形になっております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、これも、今までいろいろ話を聞いてきたら、周知の部分がなかなか行政はいついていないように感じられますので、しっかり、もうあとわずかしき期間がないので、周知をして、盛り上がるようにぜひしていただきたいと思います。

次は、7番目の子供のスポーツ活動支援ということで掲げていたんですけど、この部分については、どのようになっていますか。

○議長（森 昭人君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（安田加津浩君） 子供のスポーツ活動の支援ということでございますけれども、生涯学習課の中で、社会体育として、日出町スポーツ少年団の活動の事務局をしております。現在、加入団体が21団体ございまして、まず支援については、各団体への補助金並びに県内で優秀な成績を修められた団体につきましては、九州大会、全国大会における出場補助金等をお渡ししております。

また、別途、その年に活躍された団体におかれましては、10月に生涯スポーツフェスタが開催されますので、その開会式において、優秀な成績を修めた団体につきましては表彰のほうをさせていただくようにしております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 町長、このスポーツ活動の支援ということで掲げていたんですけど、町長の活動の支援ということはどういうことだったんですか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 支援というのは、別に経済的な支援ということに限ったことではなくて、いろんな、顕彰したりとか、そういった形でさらに推進していこうという思いでございました。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） なかなかあやふやで、今までやってきたことに対して、またしっかりと支援していくということなんですね。

では、担当課のほうも、しっかりまた町長と話をして、スポーツ活動の支援、公約に掲げていたので、ぜひ今までやってきた以上にまた拡大して、金銭面だけじゃないということなんで、そういう部分についても、人的なこととかいろいろあるかと思うんですけど、この部分も、しっかり残りの期間、実現するようにやっていただきたいと思います。

次は、8番目の緊急避難所の整備と防災倉庫の増設ということで、これも掲げていたので、今の現状がどのようになっているか、お聞かせください。

○議長（森 昭人君） 危機管理室長、塩内政徳君。

○総務課参事兼危機管理室長（塩内 政徳君） 工藤議員の御質問にお答えいたします。

平成28年度以降ということで、平成28年度には、指定避難所など2カ所に防災倉庫を設置しております。また、平成29年度、平成30年度であります。日出町自主防災組織活性化事業補助金というものを利用いたしまして、7つの自治区が防災倉庫を設置しております。指定避難所への防災倉庫の設置は、終わってございましたが、緊急避難所といいますか、その他避難所となっております自治公民館等については、引き続き簡易的な防災倉庫の設置と防災資機材の備蓄

をお願いしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） その計画については、もうしっかりできているんですか。

○議長（森 昭人君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（塩内 政徳君） 防災倉庫の設置につきましては、町の事業で行うということで、自主防災組織、自治区等が避難所にそれぞれ防災倉庫、簡易的な倉庫を設置した際に、町の補助金を利用して設置いただくというのを進めております。

先日の区長会の研修会の場合においても、この自主防災組織の活性化補助金を使っていたきたいと。今年度、30年度については、大分県のほうからも補助金がつきますので、防災倉庫を設置した場合には最高で10万円の補助金がつきますので、そちらのほうを利用していただくようお願いをしまいたところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） では、この防災倉庫、こういう部分についても、しっかりこの制度をわかるように各区長さんとかに伝えて、整備が進むようにやっていただきたいと思えます。

次は、9番目の安全な通学路の整備、それから救急車の入れる集落道の整備などの推進ということで掲げていたので、担当課はこの現状を御説明いただきたい。

○議長（森 昭人君） 学校教育課長、小田雅章君。

○教育委員会学校教育課長（小田 雅章君） 安全な通学路の整備について、日出町教育委員会では、毎年、杵築日出警察署、別府土木事務所など関係機関と通学路安全推進会議を持って、定期的な合同点検、対策の検討と対策の実施を行っております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 都市建設課長、松本義明君。

○都市建設課長（松本 義明君） ただいまの通学路の件で、具体的な整備内容としましては、町道二本榎弥四郎線、内野深江港線に歩道を設置してございます。

また、大神瀬ノ上線、会下線の道路改良により、幅員の増で歩く部分をふやしている、そういった道路改良を行っております。

また、町道太田豊岡駅前線の電柱を移転しておりまして、こちらは地元の要望と安全協議会の協議の中ということで、粛々と電柱を民地側に移して、道路の有効幅員を広げるような事業を実施しております。

また、県営事業のほうの協力として、県道日出真那井杵築線の道路改良にて、歩道設置を行っ

ております。

さらに、救急車の入れる道路の整備としましては、町道無田本線の道路改良による、もともと狭い幅員で2メートルしかなかったのを、4メートルに拡幅する事業を推進してございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それは、昨年度ですか。今年度は計画がありますか。

○議長（森 昭人君） 都市建設課長。

○都市建設課長（松本 義明君） まず、二本榎弥四郎線は、もう終了いたしました。

内野深江港線は、ただいま工事継続中ですが、今年度で終了する予定でございます。

大神瀬ノ上線、会下線に関しましては、今年度も継続事業ということでまだ実施を続けてありますし、太田豊岡駅前線も、今年度継続で電柱移転を推進していく予定でございます。

また、町道無田本線も、本年度まで道路改良を行う予定にしております。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、安全な通学路、狭い箇所何カ所もあるし、町長も公約に掲げておりますので、予算の関係とかいろいろあるかと思えますけども、順次整備をしっかりと進めていっていただきたいと思えます。

次は、10番目の介護とか保育の現場で働く方々の待遇改善ということで掲げていたんですけども、この点について、担当課に伺いたい。

○議長（森 昭人君） 健康増進課長、利光隆男君。

○健康増進課長（利光 隆男君） 工藤議員の御質問にお答えします。

まず、介護現場で働く方々の待遇改善です。

介護現場での待遇改善の一つとして、介護職員処遇改善加算が挙げられます。これは、介護現場で働く介護職員の研修機会の確保や雇用管理の改善とともに、賃金での改善を図るために設けられた制度です。介護事業所が加算を届け出た場合に、介護職員1人につき月額1万2千円から3万7千円相当の賃金の改善を行うことができます。

町では、町内事業所に対し制度の活用を促し、必要な助言等を行ってきました。町内事業所における取得状況は、平成28年度が12事業所、29年度が14事業所、30年度が15事業所と、成果が出ています。

以上です。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） では、保育の現場で働く方々の待遇改善についてお答えさせていただきます。

教育・保育の提供に携わる人材の確保及び資質の向上を図り、質の高い教育・保育を安定的に供給していくために、職員の平均経験年数や賃金改善、キャリアアップの取り組みに応じた人件費の加算や、技能・経験を積んだ職人に係る追加的な人件費の加算を行いました。

平成29年度は、保育所や認定こども園等45施設に対しまして、約1億1,300万円の運営費加算を行っております。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 介護現場、待遇が改善されているということだったんですけども、なかなか多分厳しい状況に今なっているというふうに聞いております。ぜひ、この待遇改善についても、町のほうでできる範囲のことは最大限取り組んでいただきたいと思います。

次は、11番目、先ほどからずっと出ているんですけど、病児・病後児保育の実現ということで、もう同僚議員が何回も質問しております。

一つだけお聞きしたいんですけど、町が、この整備がおくれているという、この原因はどのように分析していますか。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） 以前、この病児保育につきましては、町内の医師の方々に御相談させていただきました。そのときに、小児科の先生、お二人いらっしゃるんですが、お話しさせていただいたときには、施設整備、それから人員確保、その点からちょっと難しいということで、後日、また改めまして医師会やらで、企業主導型、このお話をさせてもらったところ、今回、鈴木病院さんが本日から病児・病後児事業を実施するというようなお話に至っておる次第です。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） きょうから鈴木病院のほうでスタートしたということだったんですけども、これまでは杵築とか山香に行っていた状況がありますよね。できるだけ子育て支援を、町長、力強く政策に掲げていっていますので、ぜひ周辺の自治体におくれないような取り組みをやっていただきたいと思うんですけど、町長、考え、どうですか。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 病児保育、ただいま子育て支援課長が説明申し上げましたように、なかなか診療所レベルで実施するのは難しいという背景があって、これまでできていなかったということですが、鈴木病院さんのほうがこういう形でやっていただけると。病児保育がどういう形であれ、町内で実施されるということになったということで、どういう形ででも町内の病児を

抱える保護者の方々が子供を預けることができるような体制づくりに努めていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、この点についてもしっかりまだまだ取り組んでいただきたいと思います。まだ数が限られているので、鈴木病院だけでは間に合わない部分が出てくると思うので、山香とか杵築に行かれる方については、先ほどから出ているように、300円か、そういうやっぱり金銭的な部分についてもまだ数が多分少ないと思うので、ぜひ役場でできることは支援をしてあげていただきたいと思います。

それから、その次もまた関連するんですけど、12番目に行きます。

子育て満足度県一を目指すということで、先ほどからも出ておりますけども、この取り組みについて、担当課、お聞かせください。

○議長（森 昭人君） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐藤久美子君） 子育て満足度県一を目指すということでございます。

子育て満足度県一を目指して、国や県の政策等を踏まえながら、日出町子ども・子育て支援事業計画に沿って、子育て支援の拡充に現在取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） この部分は、先ほどから出てはいますが、やはり県一を目指すのであれば、先ほど言ったように、周辺の自治体に劣らないで、先行していろいろな取り組みを実現していただきたいと思います。そうでなければ、県一は言葉だけで終わってしまうのではないかと思います。

次に行きます。

次も、安心できる介護（認知症など）の体制づくりということで、これも掲げていたんですけども、この点については、また現状をお聞かせください。

○議長（森 昭人君） 健康増進課長。

○健康増進課長（利光 隆男君） 安心できる介護（認知症など）の体制づくりにつきましては、高齢長寿化の進行によりまして、認知症高齢者の増加が見込まれ、その対策は重要な課題となっております。

認知症高齢者やその家族が安心して暮らせるよう、認知症高齢者等が行方不明になった場合に、関係機関や地域の協力を得て早期発見の体制を図る日出町認知症高齢者等SOSネットワーク事業や、GPSを利用した位置情報検索システムの初期費用助成事業等を行っております。そのほ

かにも、御本人や家族の方々が気軽に立ち寄り、お互いに交流し、相談や情報交換を行う場として、オレンジカフェひとやすみを開催し、必要な支援を行っています。

今後とも、認知症になっても住みなれた地域で安心して生活ができるよう、各施策に努めてまいります。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 体制はしっかりつくっているということは確認をしておるんですけども、しっかり機能するように、さらに力を入れていただきたいと思います。警察のほうに聞くと、最近は犯罪は減っているけども、徘徊とか行方不明とか、そういう取り扱い事案がふえてきているということですので、ぜひ今の体制がしっかり機能するように、さらに取り組んでいただきたいと思います。

次は、14番、産婦人科の誘致ということで、これも昨日から出ているんですけども。

一点だけお聞きしたいんですけども、今、婦人科のある病院と連携して、できるということはないですか。婦人科のある病院、町内にありますよね。ここと連携をして、産婦人科がなかなかすぐには誘致は今の現状では、きのうからの答弁を聞いていると非常に難しいということなんで、婦人科のある病院と連携をして、町ができることを最大限していくべきではないかと考えるんですけど、この点、いかがですか。

○議長（森 昭人君） 政策推進課長、木付達朗君。

○政策推進課長（木付 達朗君） 工藤議員の御質問にお答えいたします。

昨日、熊谷議員の答弁の中で、諸課題や対応策について答弁させていただいたとおりでございますけども、今申し上げた、昨日申したことに加えて、今回、内部で職員的な研究会を早速立ち上げます。その中で、ただ漠然と産婦人科を誘致する、これだけではないと思います。今、議員が言われたように、現状の婦人科の中で産科をとというアプローチも考えていきたいと。その辺も含めて、調査、研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、大変この部分も子供の出生率は年間240人ぐらいがここ10年間ずっと同じような平均すると数で推移しておりますので、隣の杵築とかに比べると大変子供の数も多い現状があるので、ぜひ婦人科のある病院と連携して、町ができることは最大限やっていただきたいと思います。

それから、もう最後になるんですけど、健康寿命を延ばしいつまでの元気で暮らせるよう健康づくりの推進ということを最後に掲げていたんですけども、この点について、担当課、御答弁を

いただきたい。

○議長（森 昭人君） 健康増進課長。

○健康増進課長（利光 隆男君） 健康寿命の延伸と健康づくりの推進についてです。

少子高齢化の進行に伴いまして、健康寿命の延伸は重要な課題と考えております。各事業を行うに当たり、行政だけでは限度があります。健康づくり推進協議会、食生活改善推進協議会や運動ボランティアなどの民間組織との協働のもと、より効果的な事業の推進に取り組んでいます。

これまでの主な取り組みについては、生活習慣病予防やがんの早期発見のため、検診の自己負担の軽減や申し込み方法の改善を図り、受診率の向上に努めています。

日出町の健康課題である脳血管疾患の発病予防のため、飲食店、医師会などの関係機関と連携し、節煙事業を展開しています。徐々にではありますが、皆さんの意識は高まってきているものと考えます。

日出町の健康寿命、お達者年齢ですが、この5年間で、男性が1.28年、女性が0.54年と延びています。これからも健やかで安らかに暮らせるまちづくりのために、健康寿命延伸に向け努力してまいります。

以上です。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） 健康寿命の取り組み、これも、しっかりプラス徹底的にここをしないと、いろいろ医療費の高騰とかそういうことに結びついてくるので、ぜひこれは各課も連携が必要だし、それから関係機関とも連携が必要なんですけども、とにかく徹底して特定検診の受診率を上げるとか、もうできることは、ずっとさっきから言っているんですけど、最大限努力していかないと、いろんな町長の政策に掲げていることが、なかなか財政が厳しい状況の中で難しくなるので。

町長、もう最後、締めくくりをしていただきたいと思うんですけども、財政情勢が厳しくなる中で町政運営することも大変だと思うんですけども、町民がいろいろ緊縮財政になって、明るさとか楽しさとか、そういうことが町からだんだんなくなると活力が失われてくるので、ぜひそういうところに目を向けて、しっかり町政運営を財政厳しい情勢の中でやっていただきたいと思うんですけど、最後、町長、一言力強く抱負を語っていただきたいと思います。

○議長（森 昭人君） 町長。

○町長（本田 博文君） 何か最後の質問が一番難しいですけど、どういうことをお答えしていいのかよくわかりませんが。

厳しい財政状況は、もう私が申し上げるまでもない中で、その中でも町民の皆さんが活力を失わないように、その一番大もとは健康で皆さんがいていただけることで、お元気で地域で活躍し

ていただけるあるいはお元気で働いていただけると、そういうことが町の活力の源ですから、健康づくりには私も就任してすぐから取り組んできたつもりでありますし、これからもしっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（森 昭人君） 工藤君。

○議員（13番 工藤 健次君） それでは、もう最後ですけども、先ほどから出ているように、もう徹底して、ぜひ健康づくりの部分で力を入れてもらって、大分県一を目指して町政運営をやっていたきたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（森 昭人君） これで、一般質問を終わります。

散会の宣告

○議長（森 昭人君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 昭人君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれにて散会することに決定しました。

本日は、これで散会します。御苦労さまでした。

午後4時19分散会
